

平成26年度 海外研修事業報告書

第14回カナダ・アメリカ派遣



スタンレーパークにて

*WEB 上の報告書においては、生徒が特定できる写真、氏名等については配慮いたしました。

Surrey, British Columbia, Canada

研修期間：平成26年7月22日～7月31日

協力：Regent Christian Academy International School

公益社団法人 全国工業高等学校長協会

国際化事業推進委員会

目 次

1. はじめに	2
2. 第14回高校生海外研修実施要項	3
3. 海外研修日程表	5
4. 海外研修ポスター	6
5. 海外研修・結団式	7
6. 海外研修での挨拶	8
7. 海外研修の概要	10
1日目 7月22日(火) 結団式及び出発、現地到着 ホストファミリーとの対面	
2日目 7月23日(水) 現地高校生徒との交流、一緒に工科大学(BCIT) 見学	
3日目 7月24日(木) 国境を越えシアトル見学	
4日目 7月25日(金) ボーイング社見学そして再びバンクーバーに戻る	
5日目 7月26日(土) 終日ホストファミリーと休日を過ごす	
6日目 7月27日(日) //	
7日目 7月28日(月) バンクーバー散策	
8日目 7月29日(火) False Creek Energy Centre 見学、交流会、さよならパーティー	
9日目 7月30日(水) 空港へそして帰国の途に	
10日目 7月31日(木) 無事帰国	
8. 生徒の報告	17
9. アンケート結果	50
10. 研修生の感想(帰国の機内でのアンケートから)	51
11. 結びに	54

1. はじめに

国際化事業推進委員会委員長 市川 孝
(埼玉県立狭山工業高等学校長)

全国工業高等学校長協会主催による第14回海外研修事業を、平成26年7月22日(火)～31日(木)までの10日間、北米(カナダ・バンクーバー、アメリカ・シアトル)において実施しました。

全国工業高等学校長協会による生徒の海外派遣の試みは、文部科学省の支援を受けて、平成8年に実施した第1回の生徒・教員によるニューヨーク州への派遣から始まります。平成13年から今回のような海外生徒派遣の形となり、今年で14回目となります。第1回～第10回までは、オーストラリア・アデレードにおいて、16日間のホームステイ及び現地校での語学研修を中心としたプログラムを軸に実施し成果を上げてきました。

第11回からは、第10回までの実施内容を見直し、訪問国・研修期間・研修内容を変更し実施してまいりました。現在の研修内容は、工業高校ならではの海外研修としての狙いから、カナダにおいて10日間のホームステイ、現地校における語学研修と学生の交流など、従来の異文化や多様な価値観や行動様式に触れることに加え、研修の大きな柱として、工業系博物館の見学、工業系技術学校への訪問、工業関連施設への訪問、公共的環境対策事業所への視察が組み込まれました。カナダ訪問も4回目となり、今回は、見学施設を絞るなど、多少余裕のある日程としました。

また、今年度の特徴として、(1)ブログによる情報発信。(2)公募による教員の初参加。(3)若手教員による引率があげられます。ブログによる情報発信では、家族及び関係者に活動状況をタイムリーに伝えることができました。ご家族に安心していただくとともに、保護者からのコメントに引率者も励まされ、活動することができました。また、公募による教員の参加では、海外での活動経験が豊富な方であり、ホームステイを始めとして、ほかの研修生とほぼ同様な活動に加えて、その経験を生かして引率者同様のアドバイスを参加生徒にさせていただきました。引率者は、委員(校長)とリスニング検定関係の若手教員が務めましたので、年齢や経歴の異なる3名の教員がかかわることができました。その結果、参加生徒19名は、不安を抱えながらも常に意欲的にプログラムに参加し、伸び伸びと多くの体験を重ねることができたものと思います。

プログラム内容と生徒の成長段階は、仲間やファミリーに支えられ、日々活動が自信へとつながっていく様子をもとに、次の4段階に整理しました。本報告集には、研修の概要と共に、参加生徒の報告・感想が掲載されています。皆様には、各段階における個々の参加者の心の動きと成長の様子を読み取っていただけるものと思います。

4段階の区分

- 1) 最初のRCA校学生との研修(2日目): [緊張の中で精一杯頑張った期間]
- 2) シアトルでの研修(3・4日目): [ホームステイ先から離れ、気持ちを整理し研修生同士のつながりを深めた期間]
- 3) ホストファミリーとの生活(5・6日目): [さまざまなカナダの文化や生活を体験した期間]
- 4) 最後のRCA校学生との研修、市内見学、フェアウェルパーティー(7・8日目): [活動に自信を持てるようになった期間]

最後に、今回の研修では、関係者の「絆」が強く意識される研修となりました。研修生は国内外の仲間との出会いやお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れることはないでしょう。今後、国内はもとより、国際的な視野にたつリーダーとして成長され、工業界を牽引し活躍されることと確信しております。本研修の実施にあたりご尽力いただきました関係者の皆様方に御礼と感謝を申し上げます。

ありがとうございました。Thank you very much to all!

2. 第14回高校生海外研修実施要項

① 第14回高校生海外研修実施要項

1. 目的 国際化時代を迎え、工業高校においては国際感覚や英会話能力を身に付ける教育が求められています。この様な社会状況に鑑み、本協会では工業教育の活性化を図る事業の一環として本研修を実施します。
2. 期 日 平成26年7月22日（火）～7月31日（木）の10日間
3. 研 修 地 カナダ（バンクーバー・サリー地区）、アメリカ合衆国（シアトル）
4. 研修内容 現地学生との交流、学校内・企業見学等を通して英会話能力を身につける
5. 宿 泊 先 現地家庭（ホームステイ）、ホテル
6. 経 費 350,000円（旅行費用、参加生徒20名で算出）
なお、空港施設使用税・保安サービス料、燃料特別付加運賃、航空保険料等の経費（約70,000円）は旅行費用には含まず、全工協会が負担する。
7. 補 助 金 1）一律補助：選考された参加者に旅行費用として100,000円を補助する。
2）その他上記補助に加えて50,000円をジュニアマイスターゴールド顕彰者、リスニング英語検定1級合格者、高校生ものづくりコンテスト全国大会出場者、技術・アイデアコンテスト入賞者（最優秀賞・優秀賞）、製図コンクール最優秀特別賞、高校生ロボット相撲全国大会入賞者（優賞～3位）、ジャパンマイコンカーラリー入賞者（優賞～3位）に奨学金として補助する。
8. 応募条件 会員校の生徒（学校長推薦者とし、複数推薦の場合は推薦順位を記して下さい）
9. 募集人員 20名
10. そ の 他 1）希望者は「海外研修参加申込書」並びに「応募理由」（A4用紙800字程度）を本協会HPよりダウンロードした用紙に記入し提出すること。
2）応募者多数の場合は委員会にて応募校原則1名として、書類選考する。
3）研修中の公式行事・通学時は制服を着用すること。
4）参加者は帰国後、各自報告書（協会指定の形式）を提出すること。
11. 応募締切 平成26年5月16日（金）
12. 応募書類提出先・問い合わせ先
公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局長 木暮 守雄
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1
TEL 03-3261-1500 mem01@zenkoukyo.or.jp

② 第14回高校生海外研修における教員参加実施要項

1. 目 的 国際化時代を迎え、工業高校においては国際感覚や英会話能力を身に付ける教育が求められています。このような社会状況に鑑み、本協会では工業教育の活性化を図る事業の一環として本研修を実施します。
2. 期 日 平成26年7月22日（火）～7月31日（木）の10日間
3. 研 修 地 カナダ（バンクーバー・サリー地区）、アメリカ合衆国（シアトル）
4. 研修内容 学校見学、企業視察等を通して国際感覚を身につける
5. 宿 泊 先 ホームステイ、ホテル
6. 経 費 350,000円（旅行費用）
7. 補 助 金 一律補助：選考された参加者に旅行費用として35万円の内10万円を補助する。
なお、空港施設使用税・保安サービス料、燃料特別付加運賃、航空保険料等の経費（約70,000円）は旅行費用には含まず、全工協会が負担する。
8. 応募条件 会員校の教員（学校長及び学校長推薦者）
9. 募集人員 若干名（応募生徒数が20名に満たない場合に、20名から生徒数を引いた人数を教員枠として募集する。生徒で予定数が満たされた場合は教員枠無しとなる。）
10. そ の 他
 - 1) 希望者は生徒用の「海外研修参加申込書」並びに「応募理由」（A4用紙800字程度）を本協会HPよりダウンロードした用紙に記入し校長を通して提出する（保護者氏名、学年等について不必要な箇所は削除し、生徒氏名は応募者氏名とする）。
 - 2) 校長から推薦された希望者を委員会で書類選考して、校長を通して連絡する。
 - 3) 現地では引率者の指示に従い、原則として、生徒の日程に沿って行動するが、宿泊は指定のホテルとする。
現地でのタクシー・路線バス・鉄道及び食事代等の雑費は各自負担とする。
休日及び生徒がホームステイ先に帰った後は各自のテーマに応じた行動とする。
 - 4) 参加者は帰国後、各自報告書（協会指定の形式）を提出する。
11. 応募締切 平成26年5月16日（金）
12. 応募書類提出先・問い合わせ先
公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局長 木暮 守雄
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1
TEL 03-3261-1500 mem01@zenkoukyo.or.jp

3. 海外研修日程表

	月日	曜日	発着地・滞在地	現地時間	交通機関	行動予定・宿泊	食事
1	7/22	火	成田空港集合 結団式 成田空港発 バンクーバー着 バンクーバー郊外	午後 夕刻 午前	航空機 専用車	成田空港指定場所に集合 特別会議室にて諸注意・結団式 —————日付変更線————— 入国審査・手荷物受け取り 研修地へ(途中ランチをとる) オリエンテーション・ホストファミリーと対面、各家庭へ分かれる 〈ホームステイ泊〉	機内 2回 昼 夕
2	7/23	水	バンクーバー郊外	終日	専用車	カナダ人学生とトピックを決めて英会話、BCIT キャンパス見学(リッチモンド) 〈ホームステイ泊〉	朝 昼 夕
3	7/24	木	バンクーバー郊外 シアトル	終日	専用車	バンクーバーよりシアトルへ セーフコ・フィールド(マリナーズ)、航空博物館見学 〈ホテル泊〉	朝 昼 夕
4	7/25	金	シアトル バンクーバー郊外	終日	専用車	ダウンタウン、ボーイング社等見学 後バンクーバーに戻る 〈ホームステイ泊〉	朝 昼 夕
5	7/26	土	バンクーバー郊外	終日		ホストファミリーと一緒に過ごす	朝 昼
6	7/27	日				〈ホームステイ泊〉	夕
7	7/28	月	バンクーバー郊外	終日	専用車	カナダ人学生と一緒にキャピラノ吊橋、スタンレーパーク、バンクーバー市内などを散策 〈ホームステイ泊〉	朝 昼 夕
8	7/29	火	バンクーバー郊外	午前 午後 夕刻	専用車	False Creek Energy Center (下水熱再生システムプラント) 見学 現地学生と交流会 さよならパーティー 〈ホームステイ泊〉	朝 昼 夕
9	7/30	水	バンクーバー郊外 バンクーバー発	午前 午後	専用車 航空機	出発まで自由行動 待ち合わせ場所に集合、空港へ移動 帰国の途に 〈機中泊〉	朝 昼 機内
10	7/31	木	成田空港着 解散	夕刻		入国手続き後解散	機内

4. 海外研修ポスター

平成26年度 第14回 高校生海外研修生募集



この高校生海外研修では、
全国から集まった工業高校の生徒たちと一緒に
ホームステイ・人々と交流をしながら、
語学の勉強や他国の文化にふれます

- 期間 -
平成 26 年 7 月 22 日～7 月 31 日 (10 日間)

- 研修地 -
カナダ (バンクーバー・サリー地区)、
アメリカ合衆国 (シアトル)

- 経費 -
350,000 円 (旅行費用として 100,000 円を補助)

- 募集人員 - 20 名 - 応募締切 - 平成 26 年 5 月 16 日

- 応募書類提出先・問い合わせ先 -
公益社団法人全国工業高等学校長協会
または所属の校長先生へ



パンフレット作成：東京都立工業高等学校 デザイン科 西尾かなで

5. 海外研修・結団式

日 時：平成26年7月22日（火） 12：15～13：15

会 場：成田空港 成田空港第1ターミナル 4階有料待合室

結団式：司会（全国工業高等学校長協会事務局次長）

山田 勝彦

1・開式の言葉 国際化推進委員会委員

加藤 秀次

2. 挨拶 ①全国工業高等学校長協会事務局長

瀧上 文雄

②国際化推進委員会委員長（埼玉県立狭山工業高等学校長）

市川 孝

3. 引率者紹介 ①国際化推進委員会委員長（埼玉県立狭山工業高等学校長）

市川 孝

②リスニング検定委員会委員（愛知県立春日井工業高等学校）

今井 完次

③ツアー添乗員（ISS国際交流センターツアーリーダー）

鈴木 沙織

4. 参加者自己紹介 生徒19名・教諭1名

5. 生徒宣誓 東京都立工芸高等学校 アートクラフト科 3年 土田かおり

6. 第14回海外研修（カナダ・アメリカ合衆国）の全般的な諸注意

ISS国際交流センター

糸魚川陽一

7. 閉会の言葉 国際化推進委員会委員

關 敏昭

8. 出席者 国際化推進委員：市川孝、關敏昭、加藤秀次、笹原哲也 引率者：今井完次

事務局：瀧上文雄、山田勝彦 ISS：糸魚川陽一、鈴木沙織

研修参加生徒：19名 研修参加教員：1名

都道府県	学校	学科	学年
北海道	函館工業高校	建築	3
栃木	宇都宮工業高校	電子情報	2
千葉	東総工業高校	情報技術	2
東京	東工大附属科学技術高校	科学技術	1
東京	都立工芸高校	アートクラフト	3
東京	都立工芸高校	アートクラフト	2
神奈川	藤沢工科高校	総合技術	3
長野	駒ヶ根工業高校	機械	3
静岡	浜松工業高校	電気	3
静岡	浜松工業高校	デザイン	3
岐阜	岐阜工業高校	設備システム	3
滋賀	彦根工業高校	環境化学	2
滋賀	彦根工業高校	環境化学	2
兵庫	姫路工業高校	機械	2
徳島	徳島科学技術高校	環境化学コース	2
福岡	小倉工業高校	工業化学	2
福岡	八女工業高校	情報技術	2
福岡	八女工業高校	情報技術	1
佐賀	唐津工業高校	建築	2
福島	福島工業高校	情報電子	教員

6. 海外研修での挨拶

(1) 結団式での生徒宣誓 (東京都立工芸高校 アートクラフト科 3年 生徒)

私達は全国工業高等学校長協会主催第14回高校生海外研修に参加します。現地の方々との交流を通して、語学とコミュニケーション能力を研修します。バンクーバー市、シアトル市内の観光や会社、博物館見学では歴史、文化を直接体験してきます。

これからの10日間、大きな期待で胸がふくらんでいます。

この与えられた機会を大切に、語学を中心に様々なことに積極的に取り組みます。沢山のことを吸収し、他国の歴史、文化の違いを理解し、社会に貢献できる国際人に成長できるよう努めます。

(2) カナダ人学生との交流会・さよならパーティーでの挨拶

①デービス先生への挨拶

千葉県立東総工業高等学校 情報技術科 2年 生徒 (4班: 生徒4名)

Hello! How are you?

(この後デービス先生から返答)

I enjoyed your class!

Thank you for fun class!

(この後ハグして終わり)

②マーカス先生への挨拶

徳島県立徳島科学技術高等学校 環境化学コース 2年 生徒 (3班: 生徒5名)

Dear Mr. Marcus

It's time to say good bye and we feel so sad.

Because, we had a good time with you.

At first we were shy and nervous so we can't speak English well, but as time passes we felt relaxed and smile.

It would not have been possible without

you. Your lesson is very funny and we are happy that we had a good lesson.

Mr. Marcus It was such a pleasure to meet you. We never forget you. Thank you very much!!

③カナダの学生さんへの挨拶

東京工業大学附属科学技術高等学校 科学技術科 1年 生徒 (2班: 生徒5名)

Dear Canadian Students

We were too nervous and too shy to speak in English when we met you at the first time. So we weren't able to talk with you in English. But now we can enjoy talking with you in English and playing many games... for example journey, journey game and ABB, ABD, and ABA ... games. We can understand what you say because you talk very slowly and using only easy words. So it is easy for us to understand English. We deeply appreciate your helps. Thank you very much!

④ホストファミリーのみなさんへの挨拶

東京都立工芸高等学校 アートクラフト科 2年 生徒 (1班: 生徒5名)

Dear my host family,

Thank you so much for having us in your family for 8 days. It was wonderful to spend time with you.

It was pretty hard for us to communicate with you in English, but it will remain interesting and good memories.

We'd like to say thank you very much for your kind support in many ways. We will never forget you, and Canada.

⑤打ち合わせになかったサプライズ (研修生から引率者への挨拶)。

北海道函館工業高校 建築科 3年 生徒、
岐阜県立岐阜工業高校 設備システム 3年生徒

Sorry, I can't speak English well.

今回、私達に同行していただき、本当にありがとうございました。私たちは、英語や海外の知識が浅く、わからないことだらけでしたが、なにからなにまで指導してもらって、とても心強かったです。バスなどの移動では、いつもバラバラで声を張り上げてまとめてくださってありがとうございました。たくさんの迷惑もかけてしまいました。ですが、おかげで、とても思い出に残る海外研修となりました。

Thank you very much! We can finish this program with your helps.

⑥引率(埼玉県立狭山工業高校長) 市川 孝

Hello, everyone.

I am Takashi Ichikawa, a principal of Sayama Technical High School in Saitama, Japan. I am not good at speaking English so please allow me to read this message.

I would like to express my deepest gratitude to this program and especially to all of you.

The purpose of this trip is that students get a cosmopolitan way of thinking and improve their English conversation skill.

You have an old saying, "Seeing is believing". We have a similar old saying 'Seeing once is better than hearing thousand times.' In this sense, they have seen, experienced many things this week.

Here in Vancouver, we visited BCIT, Capilano Suspension Bridge and so on. In Seattle we visited Boeing factory, Safeco Field baseball stadium. They surely learned your way of thinking and customs through these trips.

I hope they got lots of valuable experiences here. Especially spending time with RCA students and their host families are precious experience and they will remember them for the rest of their lives.

I am sure this program will end up successfully and fruitfully.

I want to say thank you very, very much to all of you.

⑦引率(愛知県立春日井工業高校) 今井完次

Hello everybody!!

I'm IMAI Japanese students escort teacher.

In Canada 10 days. I got very important experience and many memories from you.

Mr. Allan... Thank you. Mr. Davis... Thank you. Mr. Marcus... Thank you.

Host families... Thank you. Canadian students... Thank you.

And Japanese student... Thank you.

We return to Japan, tomorrow. I come back in normal life.

But, I don't (never?) forget everybody.

I don't (never?) forget 10 days in Canada.

Nice to meet you, and see you again.

Thank you!!

7. 海外研修の概要

第14回海外研修は、平成26年7月22日（火）から7月31日（木）の10日間の日程で、全国の工業系学科のある高校より生徒19名、教員1名の計20名が参加し実施された。

1日目 [7月22日（火）]

成田国際空港集合 [結団式] → 成田国際空港出発（エアカナダ 004 便）→ バンクーバー国際空港着 → グランビルアイランド [昼食] → RCA 校 [オリエンテーション] → ホストファミリーと対面、ホームステイ先へ向かう。

全工協事務局・国際化事業推進委員及び多くの保護者の方に囲まれ、成田国際空港第一ターミナル4F待合室にて12時15分より結団式。

今日始めて顔を合わせた仲間との出会いに、自己紹介では期待と不安の入り混じった様子であったが、生徒宣誓（東京都女子生徒）では10日間に渡る研修の意気込みを感じることができた。

その後、無事エアカナダ 004 便にて17時に出発。カナダは今の時期、サマータイム制を導入しておりバンクーバーの現地時間は日本と比べ16時間遅れている。フライトも9時間に及び日程終了まで約40時間、大変長い一日となった。

バンクーバー国際空港へは同日10時に到着し、日本から同行したツアーガイドのサオリさんに加え、現地ツアーコーディネーターのアキコさんと合流。毎年本研修に同行しているお二人に、今年度も最終日まで大変お世話になることとなる。

貸切バスにてバンクーバー市内のグランビルアイランドに移動、パブリックマーケット（公設市場）付近にて各自、初めて英語とカナダドルを使って注文、昼食をとる。

その後、バンクーバー市と隣接するサレー市にある RCA（Regent Christian Academy

International School）校に移動する。時差の関係もあってか、バス内では多くの参加者が睡眠をとっていた。

到着後は責任者である Allan Visser（アラン）氏から出迎えの挨拶をいただいた後、アキコさんから今後のプログラムやホームステイでの諸注意についてのオリエンテーションを受ける。そして16時より、いよいよホストファミリーとの対面、緊張の中、時折見える笑顔の中、無事全員がホストファミリーと一緒にステイ先に向かった（男子は2人で1ファミリー 女子は1人1ファミリー）。



グランビルアイランドにて最初の記念撮影

2日目 [7月23日（水）]

午前：RCA 校 [語学研修、昼食] → 午後：BCIT キャンパス見学

朝夕は今後、ホストファミリーにて RCA 校との送迎がなされる。2日目午前は2組に分かれ、各組にそれぞれ先生〔Stepher Davis（デイビス）氏、Marcus Halls（マーカス）氏〕とカナダ人現地学生数名が付き語学研修を行った。



語学研修の様子

一つの組は、現地学生が読み上げた英単語と説明から、その単語のスペルを記述するというテスト形式のリスニング練習。他方の組は、全員が自分の好きなものをなぜ好きか説明する会話練習から始まった。緊張の中で、生徒たちは精一杯に聞き取り、活動していた。

昼食は、ホストファミリーが持たせてくれたお弁当（サンドイッチや果物）を先生方や現地学生とともに食べたが、会話がほとんどなく、まだまだ距離を感じる時間だった。

午後は、RCA 校の黄色いスクールバスで、BCIT（British Columbia Institute Of Technology）リッチモンド校の見学を実施。

BCIT は、航空機に関する多様な学科があり、実際の飛行機やヘリコプターを用いて、航空機の整備・修理技術を実践的に学習する工科大学である。説明は専門用語が多く、理解するのは難しかったが、施設、設備に関しては、普段目にすることがないものばかりで、参加者は興味・関心を持って見学していた。



BCIT 見学

3 日目 [7 月 24 日 (木)]

バスにてシアトルへ → アメリカ入国審査
→ セフコフィールド見学 → 航空博物館見
学 → シアトル郊外宿泊ホテル着 → 夕食
→ フェアウェルパーティーに向けた打ち合
わせ

7 時 45 分 RCA 校集合、1 泊 2 日に渡るアメリカ研修に向け、貸切バスで移動、カナダ・アメリカ国境まで 30 分。アメリカの入国審査は、カナダへの入国審査に加え、指紋・顔写真の撮影などがあり厳しい。参加者全員が緊張していたが、入国審査も 2 度目であり、比較的スムーズに通過。全員安堵の表情の中無事、アメリカ・ワシントン州に入る。移動時間は 3 時間強と長かったが、シアトル市内の日本の食品等を扱う店舗「UWAJIMAYA」で昼食、準備してきたアメリカドルでの支払いは、慣れてきたこともあってか、参加者は問題なく会話・購入ができていた。

午前中降り続けていた雨も幸いにして止み、参加者全員が楽しみにしていたシアトルマリナーズの本拠地、セフコフィールドでは、日本人ガイド 2 名による説明の中、グランド・記者会見室・記者席・オーナー室なども見学。イチロー選手の活躍は、シアトルの誇りであることも伺うことができた。



セフコフィールド見学

航空博物館(MUSEUM OF FLIGHT)では、2 班に分かれ、退役軍人のボランティアによる説明に耳を傾けたが、専門用語も多く参加生徒は大変そうであった。展示されているライト兄弟が製作した飛行機から、エアフォースワン、コンコルド、スペースシャトルに至



るまで、実機や実物大のモデルを実際に見ることで、航空機の歴史や技術を学んだ。



航空博物館 (MUSEUM OF FLIGHT)

参加者同士での宿泊は今日 1 日のみとなる。交流を深めるよい機会ではあるが、参加者全員がすでに、さまざまな機会を通じてコミュニケーションを図れるようになっていた。

夕食については、ホテル内のレストランにて各自好みの肉料理・パスタ料理などを注文した。メニューには写真がなくイメージが付きにくい中、店員とやり取りしながら注文する課題が出され、苦戦していた参加者もいた。



ホテル内夕食時風景

カナダ・アメリカの食文化の違いについても新たな発見があったようだ。夕食後はロビーミーティング、同行ガイド 2 名より「アメリカは銃社会の国」「チップの習慣」等の文化についての説明を受け、その後 29 日に実施される交流会、お別れ会の係決め等を班ごとに

行った。お世話になった現地の先生、現地学生、ホストファミリーへのお礼のスピーチ等、各部屋にて 22 時まで話し合いを行い、就寝。

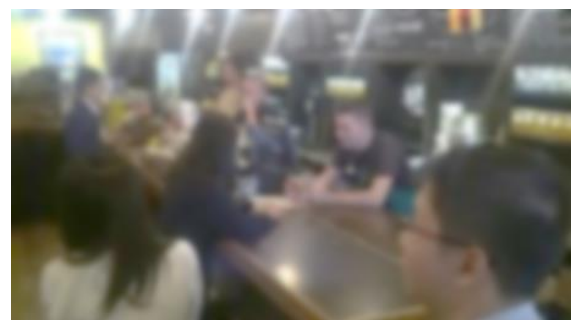
4 日目 [7 月 25 日 (金)]

ホテル出発 → シアトルダウンタウン（スターバックス 1 号店）→ ボーイング工場見学 → カナダ入国審査 → RCA 校着

宿泊先ホテルにて、朝食（ビュッフェ形式）の後ミーティング、参加者全員が楽しみにしていたシアトルダウンタウン内、スターバックス 1 号店に向かう。観光スポットということもあり行列、入店まで 30 分程待つ。初日のグランビルアイランドの時と比べ、注文については各自すっかり慣れたようで、お土産も問題なく購入、参加者が成長している姿が伺えた。



ホテル内 朝のミーティング



スターバックス 1 号店

スターバックス見学後は、シアトルから北上、カナダ帰路の途中にあるショッピングモールのフードコートにて各自昼食。その後、ボーイング社航空機製造工場の見学(ツアー)を実施。今回訪れた工場のツアーは、アメリカ国内でも大変人気であり、当日も多くの観光客が訪れていた。工場内は撮影禁止で、携帯電話・スマートフォン等も全員、見学前に預けての参加となった。工場は大変広くバスで移動しながら製造現場を回る。最新型の747-8 型機、現在ボーイング社の主力航空機である 777 型機、787 型機の製造ラインを一般の方と一緒に見学した。通常の早さの説明に対応できなかった参加者も多かったが、工場の大きさと、ライン全体が見渡せることで、製造工程が一目でわかり、大きな刺激を受けた。

帰路のバス内は、参加者がこの2日間、同じ場所・時間を共有できたことで、大変和やかな雰囲気となっていた。また、おおらかで雄大な大陸の景色が窓の外を流れる。本日で研修日程の約半分が終了するが、成果は徐々に表れつつある。



移動に使用したバス(大陸サイズ)

カナダ国境では、アメリカ入国時と異なり、荷物をバスに残したまま(入国審査官がバスに乗り込み確認)パスポート、申請書類を持って降車、日本からの生徒ということを知ると、審査官は大変優しく接してくれ、アメリカ・カナダの入国審査の違いを思い知らされた。

RCA 校に到着後は、参加者同士おしゃべりしながら、ファミリーのお迎えを待つ。いよいよ、仲間と離れて、ファミリーと過ごす2

日間が始まる。

5・6日目 [7月26日(土)・27日(日)] 各々ホストファミリーと過ごす休日。

この2日間はホストファミリーと行動を共にし、交流を深めるプログラムとなっている。内容についてはファミリーごとに違いがあるので、参加者の日誌よりいくつか紹介する。

・教会での礼拝

楽器も用いてみんなで歌う。大変にぎやかで来ている人たちに、ファミリーから自分を紹介してもらい喜んでもらった。嬉しかった。

・花火大会(バンクーバー湾内)

日没が遅い(21時30分頃)ため、22時開始。浜辺で夕日も楽しむ。

・海岸ヘドライブ

海水浴・プールでの水泳。水着をファミリーに借りる or 一緒に行ったモールで探して購入。今年の初めての海水浴はカナダのきれいな海で楽しんだ。

・ブルーベリー狩り

この時期、カナダではベリーの収穫期。

・スカイレールに乗車

サレー市・バンクーバーを結ぶ無人鉄道を利用し、バンクーバーの市内観光をした。

・シーバスに乗車

バンクーバーとノースバンクーバーを結ぶ湾内連絡船に乗り、観光をした。

・モールやダウンタウンで買い物

日本の家族と、自分へのお土産購入。

・ファミリーとビデオ鑑賞や映画を見に行く。英語だったが、理解できるようになった。

・ファミリーのサッカー大会の応援

・ファミリーや親族の誕生パーティーに参加

・ファミリーのバスケットボール練習に参加

・日本から持参した、たこ焼き器を使っ

たこ焼きパーティー

・日本の夏祭りみたいなもの(Night market)

に参加
充実した2日間を各自が過ごしたようだ。

7日目 [7月28日(月)]

キャピラノ溪谷見学 → スタンレーパーク
[昼食] → ギャスタウン見学 → 買い物 →
RCA 校着

朝8時50分集合、天気は快晴で暑くなりそうな予感。ファミリーと過ごした2日間の思いを胸に、参加者同士が顔を合わせる。日本を離れ、慣れない土地での生活に、疲れの表情は否めないが、3日ぶりの仲間との再会に、各自がホッとした様子であった。

再びRCA校のスクールバスにて移動。語学教員のデイビス氏・マーカス氏、現地学生も同行し参加者が囲うように座る。バス内はすべて英語で会話するよう課題が与えられた。

2日間のファミリーとの生活もあつてか、カナダに来て間もないころとは違い、英会話で満ち溢れる。1時間ほどでノースバンクーバーにあるキャピラノ溪谷に到着。



スクールバスから降車 つり橋に向かう

キャピラノ溪谷では、高さ70メートルのつり橋が大きく揺れるので怖かったが、参加者全員が「走らない・揺らさない・跳ねない」のきまりを守って渡る。



キャピラノつり橋



美しい木々、新鮮な空気、カナダの大自然の一部に触れ、日本の自然環境保護の大切さを実感していた。

スタンレーパークでは、芝生に座り、海・対岸の街並みを見ながら、ファミリーに作ってもらったお弁当を広げる。これ以上はないという天候・気候に恵まれたが、食事・景色を、もう少し時間をかけて楽しむことができれば良かったと感じる。



スタンレーパークにて昼食

午後は、バンクーバー発祥の地といわれる「ギャスタウン」を散策し、蒸気時計の時報を聞きながら開拓当時に思いを馳せ、その後、最後となる土産購入。

RCA校に戻り、明日のフェアウェル（お別れ）パーティーのミーティング、その後、ファミリーの迎えが来るまで参加者は現地学生とバスケットボールなどで楽しんでいた。お互い気持ちが通い合い、親交の深さを物語っている。



交流会・フェアウェルパーティーに向けミーティング



現地学生とバスケットボールを楽しむ

8日目 [7月29日 (火)]

**午前：現地企業 (False Creek Energy Center)
見学 → RCA 校に戻り昼食 → 午後：サンクスカードの作成・交流会準備・現地学生との交流会・フェアウェルパーティー**

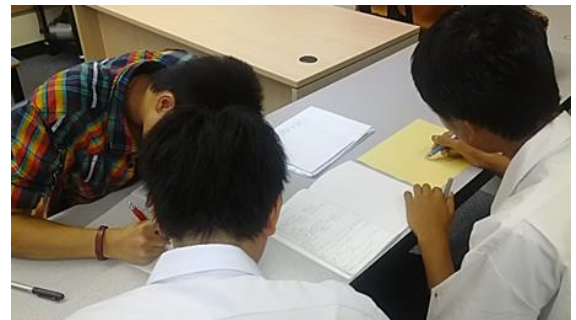
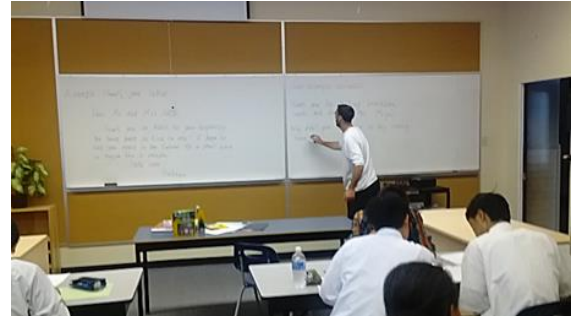
研修も早いもので今日が実質の最終日となる。午前はバンクーバー市内にある北米初の施設で、再生可能エネルギー（下水熱）を利用し、熱交換機により作り出した温水を地区のビルに供給するエネルギー施設を訪問した。見学時には、下水のにおいに悩まされながらも、持続可能なエネルギー社会への挑戦を知ることができた。



False Creek Energy center

午後は、RCA 校に戻り昼食をとった後、ホストファミリーへのサンクスカードを語学教員・現地学生の添削を受けながら作成した。中には、サンクスカードと一緒に日本から持ってきた鍵型の USB メモリに、ホストファ

ミリーとの写真を記録してプレゼントするといった参加者もいた。



ホストファミリーへのサンクスカードの作成

現地学生との交流会では、紙風船やだるま落としなどのゲームに盛り上がり、箸・扇子・折り紙などの日本文化について説明した。



現地学生との交流会

現地学生との交流が進む中、ホストファミリーが集まり始め、研修最後のイベントとなるフェアウェル（お別れ）パーティーの時間となった。

RCA 校を代表してアラン氏のスピーチ、今年度本研修団長である市川氏のスピーチと続く。

その後、各班の代表が、RCA 校の各先生方、現地学生、そしてホストファミリーにお礼を述べた。そして、現地学生からの返礼と進む。



現地学生へのお礼のスピーチ

ここでシナリオにはなかったサプライズ、参加者代表から引率者、日本の家族や関係者へ、感謝の気持ちが述べられた。参加者が、自身の成長、良き経験を実感している証である。



軽食が用意され和やかな雰囲気、別れを惜しむ

9・10日目【7月30日（水）31（木）】

7:45 RCA 校集合。バスにて空港へ → バンクーバー国際空港出発（エアカナダ 003 便）→ 成田国際空港着【検疫前に解団式】→ 解散

帰国当日、万感の思いを胸にカナダの地を離れる。フライトは9時間に及ぶが、太陽を追う形になるため日が暮れることはなく、参加者は、さまざまな形で最後の時を過ごした。成田国際空港到着後は、入国審査を済ませ、荷物を受け取り検疫前に解団式を実施。15時30分解散。全員が大きなトラブルもなく、出迎えの家族に元気に成長した姿を見せつつ、10日間を無事終えることができた。

ほとんどの生徒は、海外旅行、ホームステイは初めてであった。英語力に不安を抱えながらも、異国の文化に触れ、現地の方々との交流を通して、コミュニケーション能力や英会話力が飛躍的に向上した。そして、自分自身の「心を通わせたい」という気持ちが一番大切であることに気づき、帰国した。

経験こそがすべてである。今年度の研修も十分な成果が得られたと確信する。

参加者全員がこの経験を通じ将来、工業立国日本を支える人財として大きく羽ばたいて活躍することを祈念し、報告とする。



バンクーバー国際空港にて最後の記念撮影

8. 生徒の報告

海外研修に参加して

北海道函館工業高等学校
建築科 3年 生徒

1. Homestay

「Hi! (生徒名)！」今回、急にホームステイ先が変更になり不安だった私に顔を合わせですぐに名前を呼んでハグしてくれたファミリー。最初は英語での会話に戸惑い自然と口数が減っていきました。自分の意思さえ伝えることが出来ず我慢を続けたり、失敗したりしました。しかし、ファミリーと過ごす休日には、ファミリーがショッピング、バーベキュー、花火大会など私をたくさんの所へ連れて行ってくれました。その中で少しずつ会話が弾むようになり、自分の意思を伝える事が出来ました。ファミリーとの生活の中で自分の意思をはっきり示す大切さを学びました。そして、食事、シャワー、トイレなど日本では当たり前に行っていることでもたくさん苦労しました。異文化の中で感じたこの苦労が研修を終えた今も鮮明で「貴重な体験をしたなあ」と思います。



ホストファミリーと

2. Vancouver

バンクーバー散策は現地の学生と色々な所へ見学に行きました。カナダでの買い物や目に入る景色の全てが日本とまるで違い感動しました。

BCIT の見学は敷地の広さや設備に驚きま

した。実際に飛行機やエンジンがあり、工場のような場所で専門学校とは思えないスケールで日本では見たことのない大きさでした。

キャピラノ吊橋はとても長く、とても高く、そしてとても揺れる吊橋で本当に怖かったです。移動のバスの中ではカナディアンの生徒と音楽を流し歌ったりたり、日本語を教えたり、とにかく騒いではしゃいでいろいろな話しをして、交流が出来、楽しかったです。



カナディアンの生徒とバンクーバー散策

3. 会社見学

会社見学はボーイング社に行きました。ボーイングでは見学中の移動にバスを使用しました。驚くというよりも、もうわけがわからない広さでした。説明が速すぎて内容は解らなかったのですが、単語1つ1つが聞き取れるようになっていくような気がして嬉しくて真剣に耳を傾けていました。日本でも飛んでいるANAなどの飛行機があったり、実際に飛行機を作っている所を上から見られたり面白い見学でした。撮影が一切禁止だったのが残念でした。

4. Canada&U.S.A

カナダではRCA校が大好きになりました。放課後やランチタイムにカナディアンの生徒とバスケットボールやフリスビーをしたり、ランチを交換したり、また、授業中は私達に解るように簡単な言葉を使って説明してくれたり、カナディアンの生徒との時間が1番楽しかったです。

アメリカではセフィコフィールドやスターバックス1号店などでみんなで写真を撮るた

ん撮りました。店員の方とも撮りました。たくさん買い物もしました。買い物の時は必ず店員と **Hi. How are you?**と会話をします。店などの出入りの際は先に入る人がドアを開けていてくれます。必ず **Thank you.**と言います。今日本に帰ってきて、私は日本の店員の方が元気ないように見えたり、客が偉そうに見えたりします。向こうの人は思いやりがあり、差別がなく、いつも感謝の気持ちを持っていて素晴らしいと思いました。



SAFECO FIELD in Seattle

5. 感想

私はカナダとアメリカと日本はそれぞれ違うと感じました。それぞれの国ごとの違いを実際に自分の肌で感じて、いろんな人と話をして、ホストファミリーを見てきて、たくさん刺激を受けました。滞在中も日本に帰ってきてからもいろんなことを考えさせられるし、普段の全ての生活の仕方が少しずつ変わったような気がします。

このプログラムに応募するか悩み、行く前の不安もたくさんありました。しかし、今思うのは、想像以上に楽しかったこと、想像通り大変だったこと全部合わせて体験出来て良かったことです。今後も英語力をしっかり身につけたいと思いました。

日本全国や、国境を越えたカナダにたくさんの友達が出来ました。10日間とは思えないくらいみんなが大好きになりました。これからもこの縁を大切にしていこうと思います。先生方、両親、一緒に参加したみんな、本当にありがとう！

Thank you for the happy 10days.

Let's meet again!

CHANGE THE STEREOTYPES

栃木県立宇都宮工業高等学校

電子情報科 2年 生徒

1. Home stay

ホストファミリーが迎えになかなかきてくれないというハプニングからとっても不安な気持ちから僕のホームステイは始まりました。しかし、40分後迎えに来てくれたホストマザーと会った瞬間にその不安も一気に吹き飛びました。僕がお世話になったホストファミリーはとっても優しく温かな家庭でした。英語の慣れない僕たちにもゆっくり話すようにしてくれ、さらに簡単な単語を使ってくれたおかげで、理解することができました。インド系のご家庭だったのでカレーが夕食などにでてくるのかなと思っていたのですがカレーばかりではなく、ピザやチキンなどいろいろと夕食にだしてくれました。とってもおいしかったです。



My host family

2. バンクーバー散策

バンクーバー散策では現地のカナディアン生徒と一緒にスクールバスでスタンレーパーク、キャピラノ吊橋、ギヤスタウンなどに行きました。スタンレーパークはとってもきれいな公園でそこでおいしくランチをとりました。キャピラノ吊橋はとっても大きく揺れがすごい吊橋でした。

バンクーバーは山あり海あり都会的でありながらも自然を感じることもできるととても良いところだなと思いました。



Stanley Park

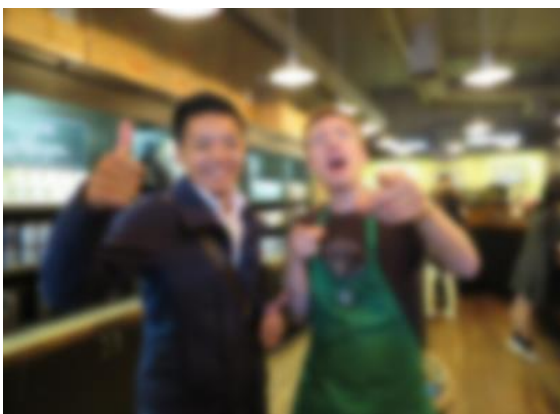
3. 会社見学

ボーイング社は本当に大きな工場でスケールの違いを感じました。工場内の写真は撮影禁止だったのでとても残念でした。

また、下水を熱エネルギーに変えお湯を作り出す会社も見学しました。普段は見ることのできないところを見学することができ良い経験となりました。

4. シアトル観光

シアトルではボーイング社の見学やセーフコフィールド、スターバックスの一号店などに行きました。



THE FIRST STARBUCKS STORE

ボーイング社ではすべて英語の説明で理解に苦しみましたができるだけ理解を深めようとがんばりました。セーフコフィールドでは建物内のいろいろなところを見て回り普段はできないとても貴重な体験をしました。スターバックス一号店では店員さんと写真を撮

ってテンションが上がりマグカップ 14 個買い日本まで持って帰るのが大変でした。シアトルでもそれぞれ良い経験ができました。

5. 感想

今回の研修は自分に大きな自信を与えてくれる研修となりました。海外の学生と英語で交流をしたことや日本語の通じない環境下での生活を体験できたことは本当に今後の人生においてとってもプラスになると思います。

また、全国の工業高校の学生とも仲良くなり、すべてが本当に貴重な体験で参加して本当に良かったなと思いました。今回、学んだことを自分から周りに発信したいと思います。今後の日本はより国際化を図りグローバル社会になると思います。そこで、やはり必要不可欠になるものは英語でないのかなと思います。将来、日本の工業界に従事するため英語をマスターし、グローバル化に対応できる人材になれるようがんばりたいと思います。今回、主催していただいた全国工業高等学校長協会様をはじめとする引率していただいた先生方ありがとうございました。心より貴重な体験をさせていただいたことに大変感謝致します。

It's cool

千葉県立東総工業高等学校
情報技術科 2年 生徒

1. ホームステイ

ホストファミリーは暖かく私達を迎えてくれました。

ホームステイ先の2歳と5歳の子供とは帰ってきた後や休日などにたくさん遊びました。休日はブルーベリー、ラズベリー狩りや教会、White Rock Beach などに行きました。日本と違う雰囲気を味わえました。

ホームステイ最後の夜にホストファミリーからもらった手紙にはとても感動し、涙が出そうになりました。最高のファミリーでした。

Thank you!



Last dinner

2. Canadian Students & Teachers と交流

Canadian Students & Teachers は2日目のおしゃべりタイム、その後の BCIT 見学、バンクーバー散策、送別会などで行動を共にしました。Students も Teachers も面白く明るい人達で、バスでの移動中や昼食の時など、みんなで楽しくしゃべっていました。私が cool を何回も言っていたら Canadian Teacher に Mr.Cool と名付けられたのがとても印象に残っています。

Thank you everyone !

3. バンクーバー散策

Canadian Students & Teachers とキャピラノ吊橋、スタンレーパーク、ギヤスタウンに行きました。キャピラノ吊橋はとても高く、長く、わくわくしました。吊橋の下を見ると綺麗な川が流れていて、周りは自然に囲まれていてとても良い眺めでした。



キャピラノ吊橋

4. アメリカ・シアトル

アメリカ・シアトルでは1日目はセフィコフィールド、航空博物館。2日目はシアトルダウンタウンのスターバックス1号店、ボーイング工場に行きました。さすが飛行機マニアの聖地と言われているシアトルだけあって航空関係の見学地が2つありました。

航空博物館は多くの歴史的な飛行機や宇宙船が展示されていました。単に飛行機の模型が展示されているだけでなく、昔の木製飛行機の作業現場の模型もありました。技術者のすごさを感じ取ることができました。また、エアフォースワンなどの機内が見学でき、Great でした。

シアトルの町並みも美しく、バス移動中も飽きませんでした。



航空博物館

5. 感想

最初のフライトから最終日の成田に到着するまでの10日間、very interesting days でした。

最終日にカナダの空港で外国人に話しかけられ受け答えができ、自分の英会話能力が上がったことを実感しました。

今回の研修で得たことを今後の人生の役に立てていこうと思います。

Thank you everyone!

See you again!

カナダ・アメリカ研修について

東京工業大学附属科学技術高等学校
科学技術科 1年 生徒

1. HOST FAMILY

私のホームステイ先のファミリーは、マザー、ファザー、大学生のお姉さんとペットの犬2匹、猫1匹でした。ホストマザーはとても優しく、私が英語で話すときは言い終わるまでゆっくり待ってくれました。また、私に対して話すときは、分かりやすい単語・構文のみではっきりと話してくれたので、とても理解しやすかったです。

ホストファミリーの家には、ワインセラーがあったり、映画を鑑賞するための部屋があったりと、とてもきれいな家でした。そんなお宅で楽しい充実した7日を過ごすことが出来ました。

ご飯はどれもとてもおいしかったです。朝はワッフルやフレンチトースト、時々ファザーが作る料理も出てきました。晩御飯は外食をすることもありましたが、家で作るときは私も手伝ったり、手伝うことがないときはお話したり、ブルーベリーをつまみ食いしたりしました。

シアトルに行くときや日本に帰るときなどは学校を経由してから移動するので学校までホストファミリーに車で送ってもらいます。帰りの車の中では、その日あったことを英語で話しました。一日の中ではこの時間が一番英語を使った気がします。

ホストファミリーは日本旅行をしたこともあり、お土産は100円均一ショップの寿司のストラップが一番喜ばれました。またGOOD BYE プレゼントとして渡した、寿司の絵のカラフルな扇子もとても喜ばれました。他には、日本のお菓子（せんべい、いちごミルク、ぷっちょなど）、折り紙、日本の新聞、自分の住んでいる地域のパンフレット、カレーのルー、インスタントみそ汁などを持っていきました。インスタントみそ汁は自分用に持って行ったのですが、あげたら意外と喜ば

れ嬉しかったです。

必要だなと思ったものは、サングラスです。カナダは紫外線がとても強く、売られているサングラスの種類も豊富でした。しかし、自分には似合わないと思い買わずに過ごしていたら、研修の後半は目が痛くなりました。最終日に連れて行ってもらった海は木陰が少なくつらかったです。



ホストファミリーとファザーの両親。

ホストファミリーとは丸2日（土曜日、日曜日）過ごす機会がありました。家の周りを見学したり、自転車に乗ったり、ビーチ、OLD HOUSE、お姉さんのバイト先の馬の訓練所（お姉さんの馬にも乗せてもらいました）、カナダ先住民の歴史博物館、ショッピングモール、スーパーマーケットを案内してもらいました。また日本の寿司とカナダの寿司を比較してみたり、外食にも連れて行ってくれました。

英語で困ったことは、ファミリーから「日本語ではどう言うのか」「日本ではどうするのか」などをよく尋ねられたことでした。頭では分かっているけど、英語で表現するのはとても大変でした。全く分からなくなったときは電子辞書がとても役に立ちました。ただ、調べている間に会話が先に進んでしまうこともありました。

心配していたお風呂はゲスト専用バスルームを貸してもらえ、とても良かったです。

2. Vancouver

キャピラノ吊り橋はとても高く怖かったのですが「下の景色は絵だから！そんなに高くない！！」と思い込み、渡ることが出来ました。

た。簡単にそう思い込むことが出来るくらい橋から見える光景は、すべて美しくバンクーバーの自然を感じました。



キャピラノ吊り橋にて

3. 飛行機について学ぶ (BCIT、航空博物館、BOEING)

BCIT (British Columbia Institute of Technology) では、飛行機の細かい部品の作り方を学びました。すべての説明は英語でされ、理解することが本当に難しく、眠気に襲われることもありました。ただ、ブラックボックスと呼ばれるレコーダーの話はとても興味深く、先生や添乗員の方に質問しながらですが、説明の内容を理解することが出来ました。

航空博物館では、飛行機の歴史について学びました。ライト兄弟、第一次世界大戦の時の戦闘機など、模型や実物がたくさん展示されていました。この時のガイドさんは英語での弾丸トークで、添乗員さんの日本語訳なしでは、まったく理解出来なかったです。

ボーイング社では、出来たばかりのきれいな飛行機の機体が並んでいて感動しました。本体の枠組みが出来たところから、飛行機が出来上がるまでを見学しました。あの巨大な飛行機を作るところなので当たり前ですが、工場も敷地も大きくて驚きました。飛行機ができあがる工程を見学したことで、怖かった飛行機に対しかなり信頼が持てるようになりました…

4. 観光 (USA)

シアトルの思い出で一番印象的なのは、ホテルでのご飯です。海外に来たという実感が一気に湧いてきた出来事でした。味の濃さ、油の多さ、量の多さにアメリカにいるのだと痛感しました。

カナダのレストランでもシアトルのホテルでも、メニュー表には細かく食材が書いてあり、嫌いなものを入れないでと頼むことが出来ました。また、チップの制度など日本にはないので新鮮でした。チップはホストまたは現地の案内の方が払ってくれたので、私個人として払うことがなく安心しました。



ホテルでのディナーのメニューの一部

シアトルではスターバックス一号店、セフィコフィールドなどに行きました。スターバックス一号店でコーヒー豆を買い、ホストファミリーにプレゼントしました。とても喜ばれ嬉しかったです。セフィコフィールドはVIP ルームからの眺めが最高だったことが印象的です。私は野球に興味はないのですが、一度ここで本物の試合を見てみたいと思いました。

5. 感想

ホストファミリーは本当に良くしてくださり、ホスト先ではゆったりとくつろぐことが出来ました。家にいるときのように寝坊もしてしまいました。

研修メンバーは、学年も、住んでいる地域も北海道から九州までとバラバラでした。いろいろな方言や考え方があり、友達との会話から各地の名産・名所を知ったり学校の特色

の違いを知ったりと、とても勉強になりました。全国の高校生と話し合う機会は初めてでカナダ・アメリカのことを学ぶと同時に、日本のことについても知ることが出来た良い機会でした。

研修で学んだことはたくさんありますが、特に「自分の考えや思いをハッキリ伝えることの大切さ」について学びました。研修に行く前の私は、自分の考えを「主張する」より「協調する」ことが大切なのだと思っていました。しかし、異文化が混ざり合う海外での研修で最も大切なことは「自分の考えを伝えること」であり、そのために「断ることも悪い事ではない」ということを実感しました。

研修の全てが驚きと発見の連続ですばらしい体験をすることが出来ました。渡航準備を手伝ってくれた両親、旅費を出してくれた祖父、引率してくださった先生方・添乗員さん、現地で案内してくださった方々、私を温かく受け入れてくださったホストファミリー、この研修をより楽しいものにしてくれた、日本全国から集結した友達やカナダの学生さん達、貴重な機会を与えてくださった全ての方々に感謝します。ありがとうございました。

異国文化に触れて

東京都立工芸高等学校
アートクラフト科 3年 生徒

1. ホームステイ、ホストファミリー

私のホームステイをした家は、Father, Mother, 10歳の息子(アシュニール)がいる Family だった。日本とは違う家の外観、部屋、生活様式、英語以外の言語、食文化に初めは戸惑いを感じた。そんな戸惑いからホストファミリーとだけで過ごす休日は不安だった。けれど、そんな不安も忘れるほど楽しい休日になった。土曜日はお土産を買ったり、ビーチへ出かけたり、その帰りに Surry Night Market へ行きインドのモノや Food を売っている日本でいう縁日みたいな所にも連れて行ってくれた。日曜日には朝の 10 時頃教

会へ行った。教会ではバンド形式の讃美歌を歌い、周りにいる人と Shake Hands Time では私も隣にいる人と握手をした。12 時すぎに終わったので約 2 時間あった。私は無宗教なので普段は教会に行く機会もないのでとても良い経験になった。16 時からアシュニールのサッカーの試合を応援しにいった。1 対 1 の引き分けで試合は終わった。夜はみんなで UNO をした。日本とは違うルールだった。アシュニールがもっと遊びたいと言ってくれたのが本当に嬉しかった。私がホームステイをした家はインド人の方で、家族同士での会話は英語ではなかったのも英語以外の言語にも触れた。6 日目に Host family の親戚の家へ行った時、女性は伝統衣装のサリーを着ていた。人が沢山いて、頻繁に人が出入りしていた。話している言葉が全く分からず、Host mother が私のことを Student と紹介し、その後はすべて母国語だったので状況がまったく分からず食事を勧められたが断ってしまった。7 日目に今度は Host の家に家族が来た。その時にグラーブジャムンというインドのお菓子を食べたが、ものすごく甘く一口で断念。例えると、丸いドーナツをシロップに数日漬けて砂糖をまぶしたようなお菓子だった。

私個人の感想として、食文化の違いが 1 番苦労した。食べる量、味覚。日本的文化で残せずに無理していたことを反省。

家族同士で話している言語は全く分からなかったが、私と話す時は簡単な英語で話してくれ、私が理解してないときはゆっくり話してくれた。初日から 2 日目ぐらいいはまだ英語に慣れてないため、Yes か No ぐらいしか喋れなかったが、土日ぐらいには結構慣れて Host family と打ち解けて会話も増えてきた。

普通に家族旅行で、ホテルに泊まり、レストランで外食し、ショッピングし、観光するのは違う経験を沢山した。家族旅行で違う地を訪れ異文化に触れた気になっていたが、実際には普遍的な過ごし方しかしていなくて、ただ言語と景色が変わっただけで、ホテルで

好きなモノを食べ、日本語しか話そうとしていなかった自分に反省と後悔。異文化を直接体験して日本の文化を違う方向から見ることもできた。今回はインドの方だったのでインドの食べ物を食べる機会があったが、口に合わないものもあり、逆に考えると日本食も口に合わない人ももちろんいるだろう。それだけ世界には沢山の国の食べ物があり、それぞれ様々な生活をしているのだと勉強になった。



**Host Family と Crescent Beach にて
(アシュニール撮影)**

2. 会社、学校見学

2日目に BICT キャンパス、8日目に FCEC、シアトルにてボーイング社工場、航空博物館を見学した。1 番圧倒されたのは、ボーイング社である。実際に使われる飛行機が何台も置いてあり、さらに普段は絶対に見ることのできない製作工程を見て、改めてその規模の大きさに驚いた。撮影禁止だったのが残念だ。もちろん、この見学した 4 つは説明が英語なので聞くのに必死で構造や作り方を理解するには難しかった。わずかに分かったのが、航空博物館での説明だった。知っている単語は聞き取れるが、前後が分からないので何の説明か理解できないのが悔しかった。専門用語がさらに難しい…ただ、英語の環境に慣れるチャンスでもあるので、分からないからと言って聞かないよりは、聞こうとする姿勢を持って参加する方がいいと思った。

3. バンクーバー

1 日目のパブリックマーケット、7 日目のキャピラノ吊橋、スタンレーパーク、ギヤスタ

ウンでバンクーバー散策をした。1 日目のパブリックマーケットでは、初めて英語で注文したがまだお金の出し方に慣れず、お札を出せば間違い無いと思いお札で支払い、お財布に小銭ばかりが…。日本には無いスタイルのお店ですべてが大きい。そして、果物、野菜、パン、お菓子何でも積んである謎…。時間が余ったので集合場所でやっていたダブルダッチのステージを見ていた。私もチャレンジさせてもらい楽しかった。

キャピラノ吊橋では Canadian の生徒、先生も一緒だったのでより楽しかった。吊橋は思っていた以上に揺れたので気持ち悪くなったが、高さに関しては平気だった。メインの吊橋は端から端にどうやって橋を架けたのだろうと疑問に思った。スタンレーパークではあまり時間がなく、昼食を急いで食べた。芝生の上で食べる昼食はいつもより美味しく感じた。散策中はずっと笑い声が絶えず、良い空間を過ごせた。Canadian の生徒も先生も皆明るく、フレンドリーで、とってもパワフルな人たちだった。



ギヤスタウンにて Mr.デビスと Mr.マーカスと私

4. シアトル

カナダとシアトルは陸続きになっているので朝早くに学校を出発、バスで移動。税関を通るため申請書をバス内で書いたため気持ち悪くなった。税関を通る時に指紋をとった。体調が悪いため頭が回らず、右の指からと言われているのに左の指をのせていて若干イライラされた。無事に？税関を通り再びバスへ。昼食をとるため日本のモノや Food を売っているお店、UWAJIMAYA へ出発。たこ焼き

やラーメンみたいなのも売っていたが、私はスーパーで日本のパンを買って食べた。早めに食事をすませ本屋や雑貨屋を見た。日本の漫画、雑誌、DVD、文房具などを売っていた。英語に翻訳されているものもあれば、されずにそのままのももあった。普段は日本語で見ているため違和感。

そこから、10分から15分ほどしたところにあるセフィコフィールドへ。セフィコフィールドではグラウンドを歩いたり、VIPルームを見学したりと特別なところを沢山見ることができた。私は東京ドームの目の前にある学校へ通っているが、近くにある東京ドームでさえグラウンドに降りたことがないのに、セフィコフィールドの土を踏めることができるなんて貴重な体験ができたと思う。私が1番印象に残っているのは、記者会見場だ。もう2度と行けることはないだろう…。綺麗な球場で流石、設備が整っていた。野球には詳しくないが、とても楽しかった。マリナーズチームショップではここでしか買えないグッズが沢山あり、私は帽子を買ったがもう少し買えばよかったと余った米ドルを見て後悔…。球場を後にし、シアトルで泊まるRED LION HOTELへ。夕食はホテルと繋がっているレストランで英語のメニューを読み、それぞれ自分の食べたいものを注文した。私はパスタを頼んだが量が多く残すことになった。この日は久しぶりに遅めの就寝になった。

朝早くにスターバックス1号店へ向かうためにホテルを出発。お店へ続く長蛇の列に驚き。お店の中は狭かった。お馴染みのマグカップやタンブラー、コーヒー豆も売っていたので私はコーヒー豆を買った。お金の出し方にも慣れてきて、会計にて「It's ok?」と聞いたら「Perfect!」と答えてくれて嬉しかった。小銭を使いこなすにはまだ慣れないが、なるべくおつりが少なくなるよう努めた。私的にはカナダドルより米ドルの方が分かりやすかった。海外で支払をするのは初めてだったので、カナダでもシアトルでも最初は緊張した。それも良い経験になった。また、日本

とは違う自動販売機の使い方に困った。2台あればどちらかが壊れているのは珍しくないことで、実際、私は水を買おうとしたがお金で飲まれて諦めたことがあった。そんなところも日本と違うところだ。



セフィコフィールドの記者会見場にて

5. 感想・その他

初日は英語の環境にまだ慣れず、プラス Host family 同士での会話は英語ではなかったため戸惑いもあった。それも日にちが経つにつれ耳に馴染むようになった。Canadian の生徒との会話も緊張はしたけれどとても楽しかった。バスでの移動中も隣に座ってお互いの友達の写真を見せ合ったり、ゲームをしていたりと終始笑いの絶えない車内だった。Canadian の生徒と話す時、写真があると自分の周りの環境を説明するため、拙い英語を補う役割もあるから重要だと思った。人見知りで人と仲良くなるのには時間がかかるタイプなので Canadian の生徒ともっと会う機会があればと思った。

学校で作ったトンボ玉のストラップを Host family や Canadian の生徒にあげたら驚いて喜んで受け取ってくれて嬉しかった。Mr.デビスには浅草のサンプル商品店で買った天ぶらのストラップをあげたら、耳につけたり、鼻につけたりすると言ってくれた。Canadian の生徒、先生も迎えにきた Host family も日本のモノに興味を持っていた。1番人気だったのは紙ふうせん、食べ物の形をした消しゴムにも驚いていた。

この研修に参加して改めて自分のコミュニ

ケーション能力が低いことを実感した。
Canadian の生徒も **Host family** も単語だけで理解してくれるが、やはりそれだけでは言いたいことは十分には伝わらないからさらに英語の勉強が必要だと感じた。研修を通して様々なことを経験し、心身ともに大きく成長できた。また、間違えることを恐れない気持ちも学んだ。ただ、それをコントロールするのはまだ時間がかかりそうだ。

ホームステイをした家がインドの方だったから2つの文化を体験することができおもしろかった。人種は違うけど優しい人ばかりで嬉しかった。苦勞したこともあったけれど、毎日が新鮮で刺激的な10日間だった。

実を言うと、私はこの研修に去年も応募したが残念ながら選考に落ちてしまった。諦めきれず今年再挑戦して良かったと思った。また、もっと海外へ行きたいという意欲も深まった。私は将来海外で働きたいと思っている。そのための1歩を少しでも踏める研修になった。10日間研修したことが今後の生活に大いに役に立つだろう。

海外研修に参加して

東京都立工芸高等学校
アートクラフト科 2年 生徒

1. ホームステイ・ホストファミリー

初めてホストファミリーと会った時はすごく緊張してしまい、上手くコミュニケーションが取れませんでした。家でも始めは部屋に



ホストファミリーと

こもってしまったりしましたが、ホストファミリーがとても優しい人達で、段々英語で会話ができるようになりました。最後の方では他愛ない雑談などもでき、学校の英語の授業では出来ないことが体験できてよかったです。

2. バンクーバー散策

バンクーバー散策では、スタンレーパーク、キャピラノ吊橋とギヤスタウンに行きました。

キャピラノ吊橋は、かなり高く揺れて少し怖かったけどとても楽しかったです。緑がすごく綺麗で、空気が清々しく気温も涼しくて、とても気持ちがよかったです。

スタンレーパークは世界一大きい公園ですが、お昼を食べるために立ち寄っただけだったので少し残念でした。お昼はホストマザーが用意してくれてサンドイッチやジュースなどで、日本のお弁当とかなり違ってたけれど美味しかったです。

その後に行ったギヤスタウンは、ディズニールランドみたいな外国の可愛い街並みが印象的でした。



ギヤスタウン

3. 会社見学

会社見学では BCIT、ボーイング工場と FCEC に行きました。

BCIT では、説明が全部英語で、専門用語も多くて難しかったです。飛行機にあまり関心なかった私でも楽しめました。英語の説明でちゃんと理解できたときはとても嬉しかったです。

ボーイング社では、ここも説明は英語でしたが飛行機の製造過程を実際に見ることがで

きてよかったです。上から眺めて全体が見渡せてとても面白かったです。

4. 市内観光

アメリカでは入国審査がとても厳しいと聞いていて少し緊張していましたが、全員問題なく審査を通ることができたのでよかったです。アメリカ郊外の風景があまりカナダと変わらなくて、アメリカに入ってからすぐはまだカナダにいるような気分でした。シアトル観光は、まずセフィコフィールドという野球場に行きました。市内に入るとのんびりした雰囲気のカナダよりも賑やかで、アメリカに来たんだな、と実感できました。スタッフさんが日本人で、久しぶりに日本語の説明を聞けて安心しました。

スターバックス1号店では限定品を買ったりその他のお店を見たりして、研修というよりも観光気分でした。



セフィコフィールドで

5. 感想

このカナダ研修で、ホストファミリーやカナダの学生、そして日本各地の工業高校生と沢山の友達と知り合いになる事ができました。また、日本とは違うカナダの文化や、生の英語を体験できてとても貴重な体験ができました。カナダに行く前は不安な事がとても多くて緊張していましたが、着いてみるとそんな不安を忘れてしまう位楽しかったです。この研修に参加できてとても嬉しいです。あっという間に10日間の過ぎてしまいましたが、一生の思い出になりました。本当にありがとうございました。

My best memory

神奈川県立藤沢工科高等学校
総合技術科 3年 生徒

1. Homestay

私を受け入れてくれたホストファミリーはとても優しく、私が理解できない英語をわかりやすく話してもらい、ジェスチャーや絵を描いてくれたりもしました。

休日は、Host Mother と、Sister の Tova と、お買い物に行き、Pet Shop へ犬のご飯などを買いに行きました。二日目から、家に韓国人の留学生が Homestay に来ました。皆で行った WhiteRock B.C では、アイスを食べながら綺麗な Beach を見て黄昏ていました。日に日に family と仲よく暮らす事が出来、休日の半日はずっとブドウを食べながらテレビを見て英語の勉強にもなり、皆でお喋り出来た事が印象に残っています。



2. バンクーバー散策

現地の学生と school bus で行ったバンクーバー散策では、Bus でみんなと写真を撮ったり、お喋りしたり、音楽を流したりでとても楽しむことができました。

言葉が通じなくても電子機器で例を出してすぐに仲良くなれました。キャピラノ橋の時も皆でお喋りしながら渡り、楽しかったです。



日焼け止めクリームをみんなで 回し塗った後の写真！！

バンクーバーは海と高層ビルがマッチして、とても綺麗な都市でした。日本ではあまり見れない景色だと思いました。

そして、現地の子供や Hostfamily だけでなく、歩いている方やお店の店員さんそれぞれの方がとても親切で、私たち日本人にとっても興味を持ってもらえてとても暖かい方ばかりでした。



3. アメリカ散策

セフィコフィールドは、とても大きく想像以上の大きさでした。ツアーのガイドさんが日本人の方だったので、とても理解できました。普段は入れない応援席などインタビュールームなども入れて嬉しかったです。屋上に上った時シアトルの景色を見る事ができその中で、スターバックス本社が、見えました。

ホテルでの夕食の量が多くて、一緒に食べていた皆が食べきれなかったのを覚えています。寝るまでの時間は皆でそれぞれの Hostfamily との出来事や、テレビを見たりし

て修学旅行みたいで楽しかったです。



4. 感想

この海外派遣を通じてさまざまなことが学ぶことができ、新しい友達もできました。初めて会ったのに、皆さんが仲良くしてくれてとても楽しく過ごせた事が感謝で一杯です！！

海外の文化を沢山学べてとてもうれしかったし将来に活かしたいです。英語も日にちがたつごとに聞き取れ会話もできるようになりました。

Thank you my friends!!!

MY BEST MEMORY

長野県駒ヶ根工業高等学校
機械科 3年 生徒

1. Home stay

人生初のホームステイ。どんな family なのか不安と期待を抱えながら stay 先に向かいました。初日は息子さんが友達の家に行っていたらしく、会話したのは host mother と grandmother だけでした。お土産をプレゼントした時、host mother はとても喜んでいました。(特に緑茶、扇子など)

最初は英語もごちなく、間違えたり大変でしたが、日にちを重ねるごとに緊張や不安が解けて会話も弾みました。後半は日本の家族の話や、富士山などの話で会話が盛り上がり英会話を楽しく感じました。

土日は shopping と beach にいきました。土曜日は Sky train で大型のショッピングモ

ールまで向かい、買い物をしました。日曜日はbeachに行き、写真をひたすら撮りました。日本に比べてバンクーバーのbeachはとて浅く綺麗で、来てよかったと感じました。

Host motherは仕事で忙しかったようで一緒に行きませんでした。でも、そんな中でも私たちのために食事などを用意してくれたんだな、と思いました。

最初は戸惑ってばかりで会話も短く、聞き取ることも難しくて上手に話せていませんでした。でも、familyのみんなが優しく接してくれたおかげでとても楽しく英語で話すことができ、充実した日々になりました。将来、カナダに行く機会があれば再会したいです。とても楽しい家族でよかったです。9日間お世話になりました。



Host family と記念写真

2. バンクーバー

バンクーバー散策の中で最も印象に残っているのはキャピラノ吊橋です。私は高所恐怖症ですが、とても楽しめました。周りの景色がきれいすぎて高さを忘れるほどでした。大きな吊橋は大きく揺れることが多く、バランス感覚が少しだけ麻痺しましたが、谷底の川もきれいで自然と一体化した気分になりました。友達と話しながら行ったのであつという間でした。最後の方に透明な床の上で記念写真を撮りました。

今回の研修のポスターにキャピラノの写真があり、行ってみたいと思っていたのでうれしかったです。高所に少しは慣れた気もしま

した。

私の中では「カナダ＝豊かな自然」という意味合いが強く、キャピラノ吊橋はまさにそれに当てはまりました。

景色を網膜に焼き付け、カナダの自然を体全体で満喫することができました。

キャピラノだけでなく、Stanley parkでのランチは最高でした。自然に囲まれた中で食べるランチは格別でした。ランチの後は、友達と写真を撮って遊んでいました。



キャピラノ吊橋

ギャズタウンでは蒸気時計を見たり、買い物したりしました。そこから学校への帰り道の途中にバンクーバーオリンピックの聖火台を見ました。バンクーバーと言えばオリンピックというイメージもあったので聖火台を見ることができてよかったです。

3. 企業・学校見学

シアトルのBoeing工場の見学は想像以上の迫力で驚きました。巨大な工場に航空機の製造風景など大きな刺激を受けました。志望理由書に書いた「アメリカの工業技術」を目の当たりにすることができました。機械油の匂いや溶接の音などの鮮明な情報を網膜に焼き付けました。Boeing工場の係員の説明はほとんど理解できず、視覚だけである程度の工程などを理解しました。

工場が大きすぎて歩くのに少し疲れてしまいました。また、バスの移動中もテスト飛行中の機体をみて興奮しました。

バンクーバーのenergy centerは下水道の熱を利用してエネルギーを作っている会社で、

少し臭かったです。しかし、施設の中はパイプが至る所にあり、ここでも技術の精度を知ることができました。

忙しい中、見学をさせていただいた企業の方々に感謝します。



Energy center での見学風景

BCIT の見学は航空機のエンジンやプロペラの取り付け作業など施設の見学をさせてもらいました。説明してくださった方の英語はさっぱりわかりませんでしたが、実物をみてなんとなく理解しました。格納庫に行った時の迫力はものすごいものでした。とても広い空間にヘリコプターや航空機などが置いてあり、興奮させられました。



BCIT の様子

4. シアトル観光

今回の研修で一番楽しかったのがシアトル観光です。最初に行ったセフィコフィールドは、野球に詳しくない私でも充分楽しめました。マリナーズのベンチに座って写真撮影、会見会場での集合写真などカメラを手放す時がありませんでした。何故か野球場でボルトのポーズをしたり、敬礼したりとふざけて楽しんでました。

球場は非常にきれいで「大事に使われてい

るんだな」と思いました。案内してくれた方が日本人だったので助かりました。

航空博物館は大好きな模型が並んでおり、興奮しました。ここでもカメラを手放さずに写真を撮たくさん撮りました。外に展示してあった引退後の大統領専用機の中に入り写真を撮りました。大統領専用機というだけあって贅沢な感じでした。航空博物館は Seattle 観光の中で最も楽しみにしていたので、とてもテンションが上がりました。



航空博物館

航空博物館で購入したプラモデルをカナダカラーにしてみました。



スターバックス 1 号店では限定のタンブラーやコーヒーの豆を買いました。また、そこでコーヒーも飲みました。とてもおいしかったです。

このシアトル観光はとても楽しく、刺激的でした。

5. 反省・感想

今回の海外研修に参加して、英会話の楽しさを知ることができました。英語で話して通じたときにとっても楽しいと感じました。さら

に、日々を重ねるごとに英会話が少しずつ上達していくのが分かりました。そして、私はそのとき思いました。何事も上達するためには“楽しさ”が必要だ、と。この経験を活かして今後の技量・知識の幅を広げていきたいと思います。

Host family のみなさんには本当にお世話になりました。短い間でしたが、楽しかったです。ありがとうございました。また、カナダ人学生のみなさんもうありがとうございました。みなさんと会話ができてとても楽しかったです。

この10日間が始まるまでは1日が長く感じましたが、この10日間は非常に短く感じ増した。それほど楽しかったです。



友達と成田空港での記念撮影

この海外研修は高校生活の最高の思い出です。その思い出を共に作ってくれたみんなに感謝したいです。ありがとうございました。また会いましょう。

カナダ (バンクーバー) アメリカ (シアトル)

静岡県立浜松工業高等学校
電気 3年 生徒

1. ホストファミリー

ホストファミリーはインド系の家庭でした。英語とヒンドゥー語の二ヶ国語を使っていました。英語を上手く聞き取れない私たちのために易しい単語、文法で話してくれました。休日はショッピングセンターやビーチに連れて行ってもらいました。とても親切丁寧な家

族でした。

食事はカレー等のスパイシーなルーとナンでした。野菜が少ないという印象を持ちましたが、デザートは必ず付いていました。お宅はとても大きくて立派で、1人1部屋用意されていました。バスルームもきれいでまるでホテルのようでした。



ホストファミリーと

2. バンクーバー周辺散策

バンクーバーは雰囲気の似た家が規則正しく並び、美しい景観がひろがっていました。ビーチには大勢の人がいて、夕日を眺めながらゆったりとした時間を過ごしていました。

キャピラノ吊橋は木々に囲まれ自然豊かで、マイナスイオンを感じました。吊橋が架かっているところは深い谷で揺れると少し恐怖を感じました。日差しもとても強くて、存分にカナダの大自然を味わうことができました。

スタンレーパークは広大で、多くの人が楽しそうに過ごしていました。大きなトーテムポールが印象的で、木陰で昼食を取りました。



ランニング中のおじさん(スタンレーパーク)

ギヤスタウンは高層ビルが立ち並んでいて美しい風景でした。ただ、歩道のポイ捨てされたゴミが少し気になりました。日本人が経営するお土産屋さんがあり、買い物がいしかったです。

3. 会社見学

ボーイング社工場では、まずその敷地面積に驚きました。アメリカという国の大きさを感じました。会社の歴史を紹介する映像を見て、工場内の作業も見学させてもらい、“ANA”と書かれた機体も見ることができました。航空機の知識がなく、理解が難しい部分もありました。

カナダの ENERGY CENTRE は再生可能エネルギーのひとつである下水の熱を利用する設備でした。捨ててしまう熱量から新たにエネルギーを作り出す革新的な施設だと思いました。匂いがキツイ場所もありましたが。

4. 市内観光

シアトルのセーフコ・フィールドでは、球場内を隈なく説明してもらいました。野球が大好きなので大変楽しむことができ、グッズ売り場では、ついつくさん買い物をしてしまいました。



憧れのセーフコ・フィールド

大人気のスターバックス一号店には、多くの人が並んでいました。ここでしか買えないマグカップを買って家族の土産にしました。せっかくなので、コーヒーのブラックを注文しましたが、苦くて口に合いませんでした。

5. 感想

今回の研修では、自分自身の英語力の無さに気付かされました。もっと勉強しておけばよかったという後悔もあります。しかし、この事に気付くことができたのも、研修に参加したおかげです。全国から集まった工業高校の学生・先生方と出会えて、いい関係が築けたことは、一生自分のためになると思います。高校生最後の夏休みにとてもいい思い出ができたことに感謝します。

Thank you very much.

私を変えてくれた 10 日間

静岡県立浜松工業高校
デザイン科 3年 生徒

1. ホームステイ、ホストファミリー

私のホストファミリーは、祖父、父、母、長女（15）、次女（10）、長男（4）の6人家族でした。

ホストファミリーと初めて対面する時、私はわくわくしていましたが、同時に緊張もしていました。まだ誰がどのファミリーに行くか分かっていなかったとき、名前を呼ばれ振り向くとそこには笑顔で立っているお母さんと子供たちがいました。その瞬間私の不安は消え期待に変わりました。車に乗り込み少し緊張していた私に、お母さんは「リラックスして時間がかかってもいいからたくさん話して挑戦なさいね。」と言ってくれました。私はその日から知っている単語や文法をありったけ使い家族との会話を楽しみました。

平日は家に帰ると子供たちとレゴやお絵かき、折り紙をしたりして遊んでいました。そしてなにより感動したのはお父さんのギターの弾き語りです。毎晩私の前でたくさんの歌を聞かせてくれました。帰国する前日に自分の部屋で帰り支度をしていると、いつものようにお父さんの歌声が部屋まで聞こえてきました。もう聞けないのかと考えたら、ポタポタと涙を流していました。

休日はショッピングやハーニーセンター、

ファミリーの友人とBBQ、市民プール、教会、親戚家族と海水浴、ブラックベリー狩り、マシュマロを庭で棒に刺して焼くなど2日間だけでもたくさんの場所へ連れて行ってくれました。どこもきれいな景色と美味しい食べ物、親切な人々でいっぱいでした。また、そこでたくさんの人々と交流できました。中には日本に英語の先生として行ったことがあるという人もいて、会話が弾んだ場面もありました。見るもの全てが新鮮できらきら輝いて見えました。

お父さんとお母さんはとても仲が良く、運転している時もいつも手を握っていました。女性を大切にしている姿がとても印象的で憧れました。また、毎晩寝る前に、4歳のルークが私に「Good night mei!」とぎゅっとハグしてくれたことがとても可愛くてたまりませんでした、家族みんなが私を助けてくれて、本当に優しく、毎日笑いが絶えない素敵な家族でした。



ホストファミリーと

帰国当日の朝、いつもは寝ているはずの子供たちが私より早く起きていて、にこにこしながら私のもとへ来て手紙や人形、手作りのブレスレットなどをプレゼントしてくれました。その瞬間今までの思い出がよみがえり、我慢できずに泣いてしまいました。お母さんは私を優しく抱きしめ「I miss you. 」と言いました。お父さんは私の手を握り、目を閉じ「あなたにどんなに辛く悲しいことがあってもあなたの心の中にはいつも私たちがいる

から。いつでも帰ってきなさい。」と私に伝えてくれました。

私は一生の宝物を得ました。

2. バンクーバー散策

TVでしか見たことのないスクールバスにカナダ人学生と乗って、キャピラノ吊り橋やスタンレーパーク、ギヤスタウンに行きました。吊り橋はとても高く、長く怖かったです。たくさんの観光客で吊り橋が揺れるたび、みんな大声で叫んでいました。

観光も楽しかったですが、何よりも楽しかったのはカナダ人学生とのバス移動や食事の時間です。お互いの共通の趣味を見つけたり、好きな歌手が同じで一緒に歌ったりしてとても盛り上がりました。国境を越えた友達の輪を全身で感じる事ができとても嬉しかったです。



キャピラノ吊り橋にて

3. 会社見学

BCIT、ボーイング工場、エナジーセンターなどの見学をしました。全て英語の説明でしたが、どこの部品で何年前に作られたものかなど、たくさんの知識を教えていただけました。飛行機をまず近くで見たことはなかったし、コックピットやエンジンを間近で見ることができ感激しました。硬く重い鉄の塊が空を飛んでいる今がものすごく不思議で凄いことだなと感じました。

4. 市内観光(カナダ・アメリカ)

スターバックス一号店やセフィコフィールドなどに行きました。アメリカはハンバーガーなど日本と比べ大きく量もありびっくりしました。

観光施設にあるドアは日本に比べて重かったです。しかし、見知らぬ私たちが通る間ドアを当たり前のように開け持っていてくれる男性が多く、日本の男性も見習ってほしいなと思いました。

セフィコフィールドでは、イチロー選手の旗や写真が数多く展示されており、日本の選手の輝かしい成績が多く見られました。インタビューで使われる席や試合で使うベンチに実際に座ることができ貴重な体験ができました。

カナダとアメリカの気候は、日差しが強かったが、日本の夏よりも湿気が無くとても過ごしやすかったです。



セフィコフィールドにて

5. 感想

今回の海外研修を通してたくさんの事を学びました。私は正直最初、この研修に参加するか迷っていました。しかし今となれば本当に参加して良かったと思います。初めての海外で不安も多かったですが、それを吹き飛ばしてくれたのは、ホストファミリーはもちろん、カナダの生徒、先生方が優しく笑顔で助けてくれたからです。そして、一緒に海外研修に参加した全国の工業高校生のみんなの存在は、私にとって大きいものとなりました。ここで得たたくさんの出会いは、私に勇気と

希望を与えてくれました。英語が話せないからと逃げていたけれど、少しずつ理解できてきたなと感じるだけで嬉しい気持ちになりました。これからの人生の中でどんなことがあっても逃げずに自分らしく生きていこうと思います。

私の心はありがたいの気持ちでいっぱいです。

海外研修に参加して

岐阜県立岐阜工業高等学校
設備システム化科 3年 生徒

1. HostFamily

1日目の夕方にホストファミリーと対面した。初めて顔を合わす人たちと10日間一緒に生活することを考えると少し緊張と不安があった。迎えに来てくれたホストファザーはとても親しみやすそうな気さくな人ですぐに緊張もほぐれて家までの道中も会話が途切れることなく過ごせた。自分たちが何を言っているのか聞き取れないときは聞き取れるよう簡単な英語を使い話をしてくれた。ホストファミリーは7人家族と大所帯で子供が4人もいて常に賑やかで楽しい家庭だった。

休日には教会やサリー州のYMCAのプール、ショッピングモール、現地の人たちとジム内でバスケットボールをするなどとても充実した時間を過ごすことができた。いつかまた必ず再開したいと思う。



ホストファザーとのお別れ

2. CANADA in Vancouver

カナダに着き最初にパブリックマーケットへ行き初めてカナダ\$を使い買い物をした。お金の使い方と注文の仕方に戸惑ったけどちゃんと買えたときはちょっと感動した。目に入ってくる景色はどの景色も感動したし日本では感じる事ができないようなことだらけで毎日が刺激的で楽しかった。



パブリックマーケットからの景色

3. BCIT

BCIT では航空関係に関することを学んだ。ここは航空機に関する学科が多くあり、見たことのない機械が多くありとても設備が充実していた。でも説明が全て英語で聞き取ることが難しくあまりよくわからなかったけど理解できる単語をなんとか聞き取りなんとなくはわかった気がする。

4. U.S.A

アメリカではスターバックス1号店やセーフコ・フィールドへ行った。スターバックスは1号店ということで平日なのにすごい行列だった。ここにしか売っていないタンブラーやマグカップを買うことができてよかった。



Safeco Field

セーフコ・フィールドはとても大きな球場だった。芝生を管理するのに年間を通して何億もの資金がかかっていることを聞いてビックリした。

5. 感想・その他

今回の海外研修が自分の初めての海外だった。

海外に行くこともホームステイをすることも初めてのことでたぐさんの不安があったけどそんな不安もあつという間になくなって行きのフライト中にはやく着かないかと楽しみで仕方がなかった。たった10日間という短い日々だったけど毎回見るもの全てに刺激を受けたし、とても内容の濃い10日間を過ごせた気がする。

初めて出会った研修の仲間や添乗員の人たちがいたけど自分が行ったことがなく頼れる人がいないという状況で多くを学べた。初めて出会った人とのコミュニケーション能力や自分からなんでも行動してみることが大切だと学んだ。行動するにしても人の目をうかがって周りに合わせるなんてことをしていたらタイミングが減っていくだけで学んだしこういう場所に行くことで行動力や自信を得ることができた。またどんなことも話してみないことには何も伝わらないし言葉の表現の仕方もあるって言葉を伝えることの重要性を学んだ。

今回の研修でとても多くの出会いがあった。この研修で集まった生徒だけでなくカナダ人学生とも連絡先を交換することができたし本当にこの出会いを大切にしたいと思った。

この研修のおかげで英語をもっと多く利用したいと思ったしとてもいい思い出になったしいい経験になったと思う。この経験を自分のプラスにして活かしていきたい

海外研修を終えて

滋賀県立彦根工業高等学校
環境化学科 2年 生徒

1. ホームステイ

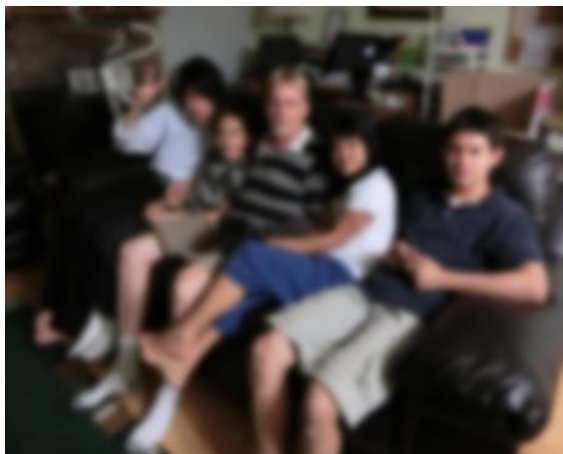
今回の海外研修のホームステイは男子が 2 人 1 組でホームステイする形でした。ホストファミリーはどんな人達なのかと緊張していましたが、とても優しいファミリーでした。

私は英語が得意ではないので会話ができるか不安でしたがファミリーの方々はゆっくりと英語を話してくださったので聞き取りやすかったです。英語を文にして話すのは苦手だったので単語にジェスチャーを被せてファミリーの方々に自分の言いたい事を伝えました。

私のホームステイ先ではホストマザーとホストファザーが交互に晩御飯を作っていました。私も晩御飯の用意を手伝ったのですが当然ながら指示は全て英語なのですばやく動けないことがありました。ホストファザーとホストマザーの作る料理はとてもおいしく、中でもホストファザーのお店で出す予定のフレンチトーストを朝ごはんに作ってもらったのが一番おいしかったです。

休日は花火大会やバンクーバーに連れてってもらいました。

滞在中は私を家族の一員のように接してくださったのでとてもファミリーのみなさんに感謝しています。



ホストファミリー宅にて

2. バンクーバー散策

バンクーバー散策では、カナダ人学生と一緒にキャピラノ吊橋に行きました。吊橋の高さは 70m くらいあり長さも結構長くかなり揺れたのであまり好きになれない場所でした。

吊橋の下には綺麗な川が流れていてその周りにはたくさんの木々がありました。昼食はカナダ人学生と一緒にとり、その合間に日本のおもちゃなどで遊びさらに仲を深めることができました。



キャピラノ吊橋にて

3. 会社見学

ボーイング社では飛行機を作っているところを見学しました。工場内では飛行機の中で作業する人やパソコンを使って作業する人などたくさんの人がそれぞれの仕事をこなしていました。そういった人たちのお陰で丈夫な飛行機が作られていると思うと、とても感動しました。航空博物館にはたくさんの飛行機があり、そのひとつひとつにいろいろな歴史があることを感じました。



航空博物館にて

4. 感想

私が海外に行くのはこの研修が初めてだったので不安なこともたくさんありましたが優しいホストファミリーやこの研修に参加したメンバーのおかげで充実した研修になりました。カナダの人々はとてもフレンドリーでなじみやすい方々ばかりでした。カナダでは文化の違いや人の温かさを感じることができました。また、今回の研修を通して知り合った友達との思い出は私の宝物になりました。この経験を今後の進路選択に活かしていきたいと思います。

夢のような9日間

滋賀県立彦根工業高等学校
環境化学科 2年 生徒

1. HOME STAY・HOST FAMILY

私は英語が苦手な方だったので、オリエンテーションのときからどんなホストファミリーなのかとずっと緊張し不安ばかりでした。しかし迎えてくださったホストファミリーはとても明るく優しい方で嬉しかったです。休日の1日目はビーチに連れて行ってもらいました。私の住んでいる滋賀県は海に接していないので滅多に行けないビーチに行けて嬉しかったです。空と海が同じ色でとても感動しました。2日目は朝から昼まで教会へ行き昼からは私がリクエストしたショッピングへ行きました。教会に来ていた全員が一緒になって歌っているのを聞いてすごく鳥肌がたちました。他にも公園やレストランにも行き、何もかもが初めてだった私でしたが、いつの間にか不安な気持ちがなくなっていました。洗濯が週に1回でお風呂に入れない慣れない生活はやはり日本と違うなと思いました。本当の家族のようにしてもらい日本に帰る時が近くにつれ本当に悲しくなり、このままカナダにいたいと思うばかりでした。



ホストファミリーと

2. VANCOUVER

キャピラノ吊り橋では橋が揺れるのがとても楽しく高いところから見る美しい景色が印象的でした。スタンレーパークでの大きなトーテムポールも日本ではまず目にすることがないので、本当にカナダに来ているんだと自分で納得していました。そしてバンクーバー五輪の聖火台も見ました。テレビでしか見たことなかったものが近くで見れて感動しとても嬉しかったです。



トーテムポールの前で

3. COMPANY TOUR

見学した会社は専門的用語が多く、あまり聞き取れませんでした。ボーイング社は広い敷地内をバスで移動するほど今まで見た中で一番大きい工場でした。エレベーターも荷物を運ぶエレベーターと思うぐらい大きかったです。会社には制服がなく新鮮で働きやすそうな雰囲気でした。最近話題のボーイング

787 機を見せてもらいました。787 機は日本の会社で作られているカーボンを使っているの
で、すごく関心を持ちました。

4. CANADA・USA

セーフコ・フィールドとスターバックスの
第一号店が印象的でした。滅多に入ることが
できない KEYBANK DIAMOND CLUB や
選手が座る席や毎日手入れされている球場内
に入ったりして、野球好きの私からしたらと
ても幸せでした。スターバックスの第一号店
ならではのデザインは今のロゴと比べ物にな
らないぐらいロゴが違いすぎて驚きました。
名前を書いてもらうとき、ニックネームで書
いてもらった店員さんにすごく笑われたの
が私からしても面白かったです。



セーフコ・フィールド球場にて

5. IMPRESSIONS

日に日に盛り上がったバスの中や何気ない
事、みんなで写真撮ったりしたのがすごく楽
しかったです。カナダの学生さんは個性をち
ゃんと持ち、恥ずかしがらずしていたところ
が私たち日本人との違いだと思いました。何
一つ面白くないことがなく本当に楽しかった
です。初めは仲良くなれるか不安でしたが引
率の方や先生方を含め、みんなと仲良くなれ
たことがなにより嬉しかったです。ホスト
ファミリーと離れるのも寂しかったけど、み
んなと離れるのも寂しかったです。

時差が 16 時間もあり、飛行機で 9 時間とい
う長時間の飛行。カナダは 21 時でも明るくて
世界は広いなと改めて思いました。この研修

で私は世界どこいっても感謝というものは大
切なことなのだと考えさせられました。

すごく楽しかった思い出いっぱいの 10 日間。
また同じメンバーでカナダへ行きたいです。
みんなありがとう。

海外研修終了&修了！

兵庫県立姫路工業高等学校
機械科 2 年 生徒

1. Homestay

僕はホームステイ先に 2 人で滞在しました。
1 つ上の子でしたがすぐに打ち解け仲良くな
ることができました。ホストファミリーの家
庭ではいつも美味しいご飯を食べさせて貰っ
て本当に良かったです。でもご飯の量が多か
ったが、それもいい経験になりました。ホー
ムステイ先の方たちはとても優しく、親切に
してくれました。そして、家では全ての会話
が英語です。初めての環境でとても緊張しま
したが、分かりやすい言葉で話してくれたり、
ゆっくり話してくれて本当に良かったです。
また、一緒だった子と解らない単語があつた
りしたら話し合い解決していきました。1 人
だったらどうしようとかしゃべれなかったらど
うしようとか行く前は考えていたけど二人で良
かったし何とか会話できるようになって良か
ったです。ホームステイは一生で出来るか分
からないようなことです。このような体験が
出来て本当に良かったです。



ホームステイ先の部屋

2. Vacouver

バンクーバーでは現地の子たちとまわりました。向こうの子はみんな笑顔が素敵で、とても優しかったです。僕もそんな風になりたいと思いました。キャピラノ吊橋では現地の学生の子と一緒に回って色んな話が出来て良かったです。

学校の中で昼食を食べる時がありましたが、その時、前に食べたピザを食べたいという話をしたら、現地の学生の子が買ってきてくれてみんなで食べました。とてもおいしくて良かったです。そのあとみんなでフリスビーをしたりバスケットボールをしたり動画を撮ったりしました。とても楽しくて良い思い出です。また、みんなでやりたいです。



トーテムポール前

3. Company tour

工場見学ではボーイング社に行った。日本のスケールとは比べものにならないくらい広くて移動はすべてバスでした。工場内は撮影禁止で写真が撮れませんでした。でもよく説明を聞いているといくつか分かる単語があり、たまに理解できました。でも工業的な単語が出てきてしまうと全く分からなくなりました。もっと工業的な英語も身に付けて行きたいと思います。本当にいい経験になり、良かったです。

4. Canada/U.S.A

カナダでは本当に色々なことを体験することができました。見る物やする事すべてが初めてでとても新鮮でした。アメリカではスタ

ーボックスの第1号店に行きました。店員の人がとても面白くて一緒に写真を撮りました。あとは、セーフコフィールドに行き、色々なところを回りました。ダウンタウンでは色々な所で楽器を弾いて歌を歌ったりしていてとても面白かったです。向こうの店員の人たちは何か買う時でも Hello や How are you?と言ってくれ、買い終われば Have a good dayと言ってくれます。日本に帰ってきてコンビニなどに行って物を買っても何だか店員の人冷たく感じてしまいます。とても楽しむ事が出来て良かったです。



マリナーズのインタビュールーム

5. 感想

僕は今回の海外研修でたくさんの事を学ぶことができました。英語の面ではしゃべることがまだできませんが、聞くことはだいぶ慣れてきました。向こうの人たちはとても心に余裕があり、通勤ラッシュの時間でもみんなゆっくりしていました。現状では余裕なんてなく、急いでいるときの方が多い気がします。余裕を持てるようにしたいと思います。英語はいま世界各国でだいたい通じます。日本の企業でも会社内では英語だけというところもあります。だから英語を身に付けて損はないと思います。研修を通して将来の幅も広がりとってもいい経験になりました。協力してくれた先生、両親に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

カナダ・アメリカ研修に参加して

徳島県立徳島科学技術高等学校
総合科学類環境科学コース 2年 生徒

1. ホームステイについて

幼い頃から英語に関心があり、短文であれば話せるのではないかという期待を持って、海外研修にチャレンジしました。

カナダに到着直後は、簡単な買い物さえできないのが現実でした。ホームステイが始まって3日間は、思うような会話ができず、自分の勉強の足りなさに苛立ちを覚えることばかりでした。

しかし、その不安や苛立ちは、ホストファミリーが優しく、熱心に話しかけてくださったことで、徐々に薄れていきました。気持ちを伝えることが大切だと教えていただきました。

ホストファミリーはインド系でした。ホストファーザーのお母様はインドの風習を大切にされており、フォーク等を使わず、手で食事をされていました。ホストマザーが作る料理は、サラダやソーセージ等の一般的な洋食が中心でした。インド料理は少なかったように思います。ホストマザーの手料理はとても美味しく、毎晩の食事には飽きることはありませんでした。

また、ホストファミリーはキリスト教を信仰されていました。日曜日には教会に連れて行ってもらい、宗教的な異文化との触れ合いを楽しむことができました。



ホストファーザーとの写真

2. バンクーバー散策について

2010年の冬季オリンピックが開催されたバンクーバーにホームステイをしました。バンクーバーには様々な観光名所がありますが、今回は、キャピラノ吊橋、スタンレーパーク、ギヤスタウンを散策する時間がありました。

私が最も印象に残ったのは、スタンレーパークです。スタンレーパークは4平方キロメートルもの広さを誇る、有名な公園です。ここでは針葉樹林があり、とても大きい木が多く生えていました。そして、海にも面しており、とても美しい景色を見ることができました。ただ、ここで過ごせた時間が1時間もなかったことが残念でした。



スタンレーパークからの景色

3. 航空博物館見学について

アメリカでは主にシアトルを観光し、航空博物館を訪れました。

そこには様々な歴史ある航空機が展示されており、飛行機が開発された当時の道具や作業工程の模型を見学しました。ケネディ大統領が使用していた大統領専用機や戦闘機等も展示されており、私は感動しました。中でもスペースシャトルの実物大模型を見たときは、



スペースシャトルの写真

つい「すげえ！」と口に出してしまうほどでした。実際に宇宙で使われた脱出艇や本物の宇宙服を見ることができ、とてもうれしかったです。

4. セーフコフィールド見学について

シアトル観光で最も印象に残っているのは、シアトル・マリナーズのホームスタジアムであるセーフコフィールドです。

私は野球が好きで、特にイチロー選手のファンであり、最も楽しみにしていたイベントでした。

セーフコフィールドでは、日本人を採用されており、観光案内及び説明を日本人職員の方がしてくださいました。日本語での説明でしたので、とても安心できました。

グラウンドに入ったときは、イチロー選手の姿を思い出し、選手でもないのになぜか緊張してしまいました。ベンチに座ったときは、思わず写真撮影をお願いしていました。

5 感想

今回の海外研修はとても大切な経験でした。全てが新しいことへの挑戦であり、不安や緊張、興奮や感動を繰り返しました。様々なことを一気に体験できた時間でした。

ホストファミリーやカナダ人学生との会話、施設見学やアメリカ観光でのヒアリングを通して、徐々に英会話でのコミュニケーションができるようになりました。言葉が通じる場面が増えることに比例して、落ち着いた言動がとれるようになりました。

私はこの研修で、言葉の大切さを学ぶとともに、英会話能力の向上が新たなチャレンジの機会を得るきっかけになると実感しました。

最後になりましたが、ホストファミリー、カナダの先生方や学生の皆さん、この研修を引率してくださった先生方、一緒に参加したメンバー、この研修で出会ったすべての人に感謝しています。この経験と出会いをこれからの生活に生かしていきたいです。

海外研修を終えて

福岡県立小倉工業高等学校
工業化学科 2年 生徒

今回の海外研修で最も印象に残ったのは、ホストファミリーとの交流です。

RCA 校で初めてホストファミリーにあった時、意思の疎通ができるかどうかが一番不安でしたが、駐車場に向かいながら、"I'm nervous now!"と話しかけたところ、"Don't be shy~! haha."と笑いながら優しい言葉で返事をしてくれたので、言葉が通じる喜びと、優しい人でよかったという安心感で満たされ、不安はなくなりました。



最終日にホストファミリーと

ホストファミリー宅に荷物を置いてから、車で五分ほどの距離にあるスーパーマーケット「REAL CANADIAN Superstore」に連れて行ってもらいました。カートがコインを入れて使う有料制だったことや、商品一つ一つの大きさが日本とは桁違いに大きいことにまず驚きました。例えば kg 単位のスナック菓子や、丸ごとの七面鳥、房のままのトマトなどです。日本にある 60g のポテトチップスのような小分けの商品はほとんど見当たりませんでした。一回の食事で食べる量が日本人と違うからだと思いましたが、逆に日本人の食べる量が少なすぎるのでは？とも考えるようになりました。初日の夕食後には、日本から持ってきたお土産を広げていろいろな話をしましたが、うまく伝えることができなかった場面もありました。例えば、自分の思い出が

たくさん入っている HDD の説明をするとき、「専用の」にあたる英単語がわからず、ジェスチャーで表すこともできず、途方に暮れるという経験をしました。他にも、「必要以上に」「実物」といった単語もうまく表現できませんでした。単語力は英語を話すうえで大前提であることが身にしみてわかりました。その一方で、匂い「smell」や、二階へ「upstairs」など、授業では習っておらず、最近の自主学習で覚えたばかりの単語を会話の中でよく使うことに驚きました。このことから、勉強すればするほど、自由に英語を使いこなすことができるのだということを学びました。十分な会話をするためには、授業で習うばかりではなく、自主学習が重要ということを、ホストファミリーとの会話の中で痛感しました。

以前から楽しみにしていたホストファミリーと一緒に過ごす休日は、本当に有意義なものになりました。まず金曜日の夜は、日本の夏祭りのような「Night Market」に行きました。屋台の人にどこから来たのかななどを尋ねられ、ファザーに助けをもらいながら説明したり、見たこともない食べ物を食べたり、様々なことを経験できました。土曜日は、フリーマーケットに行った後、マザーと一緒にモールで買い物をしました。この頃にはもう、小銭を使いこなして買い物ができるようになっていました。ディナーの時間までは、団地内にある屋内プールでスイミングをしました。僕の身長よりもはるかに深いプール（深さ 6 フィート）でしたが、小さな子供まで楽しそうに泳いでいるのにとっても驚きました。そして、ディナーのメインディッシュには僕が日本から持ってきたたこ焼き機を使って、たこ焼きを作りました。ファミリーに気に入ってもらえるかは少し不安でしたが、全員に気に入ってもらうことができよかったです。レシピを教えてほしいとも言われたので、一時間ほどかけて英語でレシピを書き、たこ焼き機と一緒にプレゼントしました。ファザーが、「次来たときは私たちがたこ焼きを振る舞うよ」と言ってくれたのが本当に嬉しかったで

す。その後、バンクーバーの海岸で行われる花火大会に行きました。日本とは違って、完全に日が暮れるのは 10 時くらいなので、それまでの間は近くの森や夕焼けに映える綺麗な砂浜で写真を撮るたくさん撮りました。カナダの大自然を満喫することができて、とても満たされた気分になりました。

昼間が長く、気候も日本よりはるかに快適なので、なにも一生を日本で過ごすことはないなとも感じました。きっと他のメンバーも、この研修で同じことを考えたと思います。将来はここバンクーバーなど海外で仕事や生活ができるように、今まで以上に勉強に励んでいこうと強く思いました。

アメリカ・シアトル観光では、マリナーズの球場のセフィコフィールドや航空博物館、ボーイング社工場へ行ったことが特に印象に残っています。セフィコフィールド見学では、それまでまだ若干ぎこちなかった研修メンバーが打ち解けるよいきっかけになったと思います。



セフィコフィールドでメンバーと

航空博物館では、ライト兄弟の飛行機からコンコルド、スペースシャトルに至るまでの約 100 年間の変移を一度に見ることができ、とても感激しました。初期の飛行機に様々な形があるのを見て、いかに試行錯誤して現在の形になっていったのかがよく分かりました。ボーイング社工場の見学ツアーでは、解説を断片的に理解するのが精いっぱいでした。聞き取れた単語をつなぎ合わせて、例えば「一

つの部屋を出るのに4カ月かかる」といった内容を聞き取ることができましたが、やはりここでも単語力の必要性を痛感しました。しかし、エアバスなどの大型ジェット機が一度に3台も入るほどの巨大な部屋や、バスで見学する必要があるほど広大な敷地は圧巻でした。土地の広いアメリカだからこそ建てることのできた巨大な工場だと思います。

アメリカ・シアトル観光ではほかにも、特徴的な形で以前から見てみたいと思っていたスペースニードルや、世界に店を構えるスターバックスの第一号店にも行く事ができて嬉しかったです。

最終日の2日前、カナディアンの学生を交えてのバンクーバー散策では、キャピラノ吊り橋がとてもいい思い出になりました。この頃から、カナディアンの先生や学生たちがつけてくれたあだ名「apple guy」で呼ばれるようになりました。



キャピラノ吊り橋 with APPLE

たまたま持っていたリンゴと多くの写真を撮っていたため、そのような名前になったのですが、あだ名をつけてもらったおかげでそれまで以上に仲良くなれた気がします。移動のバスの中でも、カナディアンの手遊びを教えてもらって大いに盛り上がり、言葉の壁なんて完全に越えたと感じました。

そして迎えた帰国の日の朝、僕は画用紙で作った「Thank you Card」をファミリーの前で朗読し、思い出の写真をたくさん詰め込んだUSBメモリーとともに渡しました。そ

してファザーは、5年や10年経ったとしても、ここに帰ってくる時は必ず電話かメールをしてくれ、と言ってくれました。さらに、もしhoney（恋人）や妻、子どもができたとしてもみんな連れてこい、とも言ってくれたので、とっさに「But, I can't find my honey, maybe!」と冗談を言ったところ、ちゃんと通じたらしく、皆で大笑いしました。ファザーの言ってくれたことも含めて、心の底から嬉しかったです。RCA校で車を降り、「See you again!」を最後の言葉に別れました。本当に、またいつの日か帰ってきたいです。

この海外研修での10日間は、本当に休む暇もないほど毎日が驚き、感動、発見の連続で、今までのどんな経験よりも有意義なものになりました。初日や出発前には、「発音が悪くて言葉が通じないかもしれない」などと不安もありましたが、すべて杞憂に終わりました。心配した発音は「more slowly」などと言われてから言いなおせばほとんど通じました。それから、無理に長い文章で話そうとすると、かえって理解してもらえなくなるということも学びました。例えば「get off?」や「stay here?」のような二語程度のことは本当によく使いました。これからは、将来海外で生活することを前提に、もっと長い文でも、即答で返事ができるように勉強を続けます。

学んだことはなにも語学に関することばかりではありません。例えばボーイング社の工場では飛行機の生産工程や内部の構造、そこで働く人々の様子など、工業的な見学もできました。あたり一面が森に囲まれたキャピラノ吊り橋や、休日に行った夕方の海岸などではカナダの大自然を満喫することもできました。またホストファミリーや現地の学生の皆と過ごした日々の中では、カナディアンのライフスタイルや気さくでフレンドリーな性格、文化を肌で感じるものが感じました。

この10日間で驚き、感動し、発見したことすべてが、僕の大切な思い出の一部です。これからもその思い出を忘れずに、残りの高校生活や今後の人生に活かしていきたいと思い

ます。

最後に、このような素晴らしい経験をする舞台を与えてくださった先生方や現地の人々、かかわったすべての方に感謝します。本当にありがとうございました。

海外研修に参加して

福岡県立八女工業高等学校
情報技術科 2年 生徒

1. ホームステイ、ホストファミリー

私が行くようになったホームステイ先は、コニーというおばあちゃんと犬2匹の家でした。最初は、みんなと違うホームステイ先で不安でいっぱいでした。でも、おばあちゃんは、そんな私を明るく受け入れてくれました。全然文法の力なんてなくて単語ばかりを並べて伝えた言葉だったのに一生懸命に聞いてくれて、「oh」とわかってくれたときは本当に嬉しかったです。ご飯も、いろんなところに食べに行けて良かったです。休みの日は、おばあちゃん自慢のオープンカーで、ドライブに連れて行ってくれました。初めてのオープンカーで一緒に乗れたのが、おばあちゃんです。本当によかったです。



2. バンクーバー散策

スタンレーパークでは、仲よく女の子でご飯をたべました。洋楽をながしたら、みんなもわかってくれて一緒に歌っていました。ガールズトークも盛り上がりまして良かったです。キャピラノ吊橋では、みんなできゃーきゃー言いながら渡りました。スリル満点でとても

楽しかったです。カナダの風景は、どこをみてもきれいで本当に感動しました。オリンピックが行われたところもみれて嬉しかったです。

3. 会社見学

ボーイング社では、飛行機が組み立てられている工程を見ることができました。あまりにも近いところで見れて感動しました。工場は、すごく広くてバスでの移動は大変でした。日本のANAやJALもあって、とてもわくわくしたのを覚えています。

航空博物館では、たくさんの模型があり、ガイドさんが詳しく説明してくれました。飛行機の歴史がとてもおもしろいと感じることができました。



4. 市内観光（カナダ、アメリカ）

カナダでは、BCIT キャンパスへ行きました。航空宇宙学関連の施設を見学しました。外には、ジェット機から小型飛行機、ヘリコプターなどがたくさんあって興奮しました。飛行機の中の操縦室などをみせてもらえたときはとても嬉しかったです。

アメリカでは、セフィコフィールドとシアトルダウNTOWNへいきました。セフィコフィールドでは、客席だけでなく、グラウンド、そして選手のベンチへと入ることができました。他にも、インタビュールームや記者会見ルーム、スイートルームなど普段入れないところを見学させてもらいました。ここに、選手たちがいたと思ったら気持ちが高まりました。ダウNTOWNでは、スターバックスの1号店に行きました。今とは、違うマークに

ときめいて、お土産をたくさん買ってしまいました。店員さんとも楽しく話せました。



5. 感想

私は、この10日間という、決して長いとはいえない時の中でいろいろな体験をすることができました。行く前は、英語が話せるかとても不安だったけど、現地の人は私たちの言いたいことを理解しようとしてくれたし、わかりやすく話してくれたので、コミュニケーションをとることができました。海外の経験もとてもすばらしかったけど、全国に友達ができたということもとても嬉しいです。本当にいい10日間でした。

海外研修報告

福岡県立八女工業高等学校
情報技術科 1年 生徒

1. Home stay

初めはどんな人たちが自分のファミリーなのか結構不安でした。しかし、ロビンソンファミリーは思っていた以上に親切で、2歳と5歳の男の子とその両親の4人家族で子供たちがとてもパワフルな明るい家庭でした。休日は映画を見たりブルーベリー・ラズベリー狩りに行ったりビーチにも連れて行ってくれました。特に印象深いのは毎日の食事であこがれの地域らしいとても高カロリーな食事が楽しめました。味はおいしかったです。また、最後の日には彼らからプレゼントがありメッセージカードを読んで号泣したのはいい思い出

です。



ホストファミリーと

2. バンクーバー

グランビルアイランドはストリートミュージシャンが多くて活気あふれる場所でした。あそこで食べたハンバーガーの味には感動しました。

キャピラノ吊り橋は予想外に揺れて恐かったです。自然の中にできた美しい場所でした。スタンレーパークは雰囲気の良い場所で、バンクーバー市を一望できる場所があり晴れていたのが気持ちがよかったです。



パーク内からみたバンクーバーの街

3. シアトル

シアトルはセフィコフィールドでは野球の事をよく知らない私でも日本人のガイドさんだったので興味がわく話が聞けました。

航空博物館は昔の飛行機から今の飛行機までたくさんの展示物があり飛行機の歴史を感じることができました。



航空博物館にて

4. 現地企業見学

ボーイング社は中がとても広くて飛行機の製造過程がみられて、機械とか説明とかよくわかんなかったけど興奮しました。

下水熱を利用してエネルギーを生産する施設は数少ない中で東京にもあると知り驚きました。

5. 感想

カナダに行って、周りが英語だらけの生活は初日はきつかったです。でも日を重ねるごとに自然と英語が耳になれてくる感覚がありました。カナダでのできごとはすべてが新鮮で刺激的なものでした。毎日が早く過ぎていって気がつけば研修は終わってました。研修で気がついたことですが、日本でいくら英語を勉強しても聞き取れる耳がないと相手がなんと言ってるのか理解できないし、話そうとしないと伝わらないという当たり前のことを改めて実感しました。また、今回の研修でたくさんの人と関わって人との出会いのすばらしさを知ることができました。

海外研修報告

佐賀県立唐津工業高等学校
建築科 2年 生徒

1. ホームステイ

初めは、どんな家族が自分を迎えてくれるか、その家庭にうまく溶け込んで交流ができるか、とても不安でした。でも、私を迎え入

れたくれたホスト・ファミリーはとても優しい人達で、英語が上手く話せない自分に優しく接し、色んなことを教えてくれました。カナダは日本と違って、暗くなるまでの時間が遅く、初めの数日間はとても戸惑いました。でも、それを利用してホスト・ファミリーは平日から色んなところに連れて行ってくれました。最初は近くのスーパーやショッピング・モールに始まり、近くに住むホスト・ファミリーの親戚やその友達の家にも連れて行ってくれました。休日は、ホスト・ファミリーの友達とカナダのドラマのロケ地巡りをしました。町並みは、とてもお洒落できれいでした。帰国前日に日本から持ってきたお土産の団扇や文房具を渡したら、とても喜んでくれて、嬉しく思いました。10日間という短い期間だったけれど、ホスト・ファミリーや行く先々で出会った人々との交流はとても楽しかったです。



ホスト・ファミリーと一枚

2. バンクーバー散策

カナディアン生徒たちとキャピラノ吊橋や、ボーイング社の工場見学、航空博物館など様々な施設や観光名所を回りました。最初は皆ぎこちなかったけれど、次第に打ち解けて、カナディアン生徒の皆との交流を楽しむことができました。この一番印象に残っているのは、キャピラノ吊橋です。

長い上にとっても揺れて、立って歩いていくのがやっとで、対岸に渡り終えると、どっと疲れがやってきて、顔中に汗をかいていまし

た。でも、橋の上から見える景色はとても綺麗でした。でも、カナディアン生徒たちがかなりの早足で渡るの、とても怖かったです。写真も撮ってみたけれど、ほとんど綺麗に撮れていなかった。けれど、皆が楽しんでいる様子を撮ることができて良かったです。



キャピラノ吊橋での一枚

3. 会社見学

私たちは、ボーイング社に企業見学に行きました。ボーイング社では、アメリカやカナダの航空機のみならず、世界各国の航空機を製造している企業で、入ってすぐのエントランスの天井には、様々な国の国旗が掲げられていました。それを見て、ボーイングがどれだけすごい企業かというのが分かりました。敷地はとにかく広くて、工場外だけでなく工場内の移動も人の足ではなく、車や自転車やカートを使っているのを見て、工場の規模の大きさを実感しました。工場内には世界各国の航空会社の航空機の尾翼デザインが飾られ、塗装途中の ANA 機も見ることができました。

ガイドさんの解説はとても難しくて、聞きとるだけで精一杯だったけれど、なかなか見ることのできない世界的企業を見学することができて、とても良かったと思いました。

4. 市内観光

カナダはバンクーバー市内、アメリカはシアトルを観光しました。セフィコ・フィールドでは日本人のガイドさん案内の下、選手しか入れないバックヤードや記者会見のためのホール、VIP ルーム、ベンチなどを見学しました。ガイドさんが日本人ということもあり、

質問もたくさんして、野球にあまり興味がなかった私でもとても楽しく見学することができました。スターバックスでは、皆一列に並んで、目当てのタンブラーやマグカップ、コーヒー豆などを買っていました。私はタンブラーを一つ買ったけれど、他の皆は紙袋一杯にコーヒー豆やマグカップやタンブラーを買っていたからとてもびっくりした。市内観光では、景色や観光地を見るほか、他の研修生との交流も楽しかったです。移動のバスの中で、地元の話をしたり、自分の学校のことを言い合ったりして、海外にいながら、日本各地のことも知ることができました。



スターバックス一号店付近の通りにて

5. 感想

この研修に参加して、私は日本と海外の違いを大きく実感しました。日本にいては分からない海外の文化や暮らしをホームステイで学び、現地の人とのコミュニケーションをカナディアン生徒の皆やホスト・ファミリーから学びました。初めて見る海外の景色に感激したり、文化の違いに戸惑ったり、驚いたり発見と感動が尽きませんでした。初日はどうなるかととても不安だったけれど、日を追うごとにカナダへの愛着が湧いて、最終日にはホスト・ファミリーと別れ、日本へ帰るの

が惜しく感じていました。カナダのホームステイでの暮らしは日本と違って少し不便で大変なところもあったけれど、日本とは違う暮らしを経験できて良かったです。カナディアン生徒の皆や先生たちもフレンドリーに接してくれて、とても楽しい思い出ができました。そして、この研修で一緒になった日本各地から集まった研修生との交流もとても楽しく、この期間で見聞きしたものの全て私にとってとても良い刺激となりました。この研修で得た経験を後の学習に役立てていきたいです。

カナダ・バンクーバー海外研修

福島県立福島工業高等学校
情報電子科 教諭

1. まえがき

今回の参加は教員の研修もあるとのことでしたので申し込みましたが、せっかくなのでホテル住まいでなく生徒と同じくホームステイを無理にお願いしました。自分自身の英語の勉強になるし、カナダの生の生活体験は自分にも貴重なものになると思ったためです。結果的には自分にとってもとてもいい経験ができたと思っています。

聞くとくところでは、生徒も例年以上に積極的に現地に溶け込むことができたようで、ぜひこの経験を英語のみならず今後の生活の中で生かしてもらえればと思っています。



ホームステイの家族とともに

2. 研修内容について

基本的に工業高校の研修旅行ということで、

技術的な見学、研修が含まれており、私にとってはとても興味深い研修であったと思います。ただ、分野の異なる学科の生徒にとっては少し内容が難しいものもあり、そのあたりは今後の課題とも思われます。

例えば BCIT で「主なジェットエンジンの種類はターボファン、ターボプロップ、ターボシャフト。ターボシャフトはヘリコプターなどに・・・」私の知識も軸流型、遠心型程度で詳細は後からネットで確認。でもまたボーイング社で「ジェット機のエンジンはロールスロイスと GE 製で・・・」どこかで聞いた？今の高校生は車にさえ興味がない子が増えている中でどこまで理解してもらえたか。



ヘリ用のツインターボシャフト

3. 来てみてわかったこと

①電圧は 120V (テスターで測定) : いろいろなガイドブックで 110V~120V までいろいろとあり何が正しいのかわからなかったが少なくとも私のホームステイ先では 120V でし

た。途上国と変わりなくけっこういい加減のよう。

②カナダ人はカナダ人：ガイドブック等ではカナダでは標準的（？）な英語とあったが少なくとも私があったカナダ人はカナダ生まれの WASP はいなくホームステイ先もシンガポール生まれのカナダ人奥さんにご主人はポルトガル系カナダ人。言葉はアメリカ英語的だが？少なくとも私が会ったほとんどの人が各国の訛りがある。それでもみんなカナダ人。日本人にはそのあたり理解不能か。だからこそ外国人には偏見がなく暮らしやすいとも言える。

③単位は MKS 単位系：同じ英語圏でもカナダはフランスと同じ長さがm（メートル）、温度が° C、容量がリットル。日本人にはとってもわかりやすい。しかしガソリン1リットル142カナダドルは北米では高すぎに思うのですが。中にはガソリンを入れにアメリカまで行く人もいます。

④カナダの国語は英語とフランス語：しかし西部のバンクーバーではほとんどフランス語ができる人がいなかった。飛行機の CA さんとも話をしたがエアーカナダの CA は英語以外に一カ国語話せばいいらしくフランス語が話せる CA は一人のときもあるそうです。

⑤トイレに紙が流せない：私もいろいろと海外を見てきたが下水に紙が流せない国はそんなになかったと思うが。基本的に流す水の量が少ない気がするのですが紙もそんなに品質が良くもなく、日本の JIS では100秒以内に溶けるようになっているが？

⑥物価は比較的安い？：日本にいったことのあるカナダ人は「日本は物価が高く・・・」と言いますがこちらの物価はけっして低くないと思います。バナナは中米、りんご、オレンジはアメリカからの輸入に頼り、日本食はお金を出せば買えるが同じものでも1.5倍から2倍の価格。ペットボトルの水でも日本の倍。1戸建て住宅も日本と大して変わらない。（大きさでいえば単価が高い物件が多い）

⑦カナダ人はコーヒーが大好き：BC 州な

ので名前のとおり多くのものがイギリス式かと思いきや、コーヒーと紅茶の割合はコーヒーが主流だそうで、おかげでスターバックスも沢山バンクーバーにはある。ただ、家族のコーヒーはインスタントでアメリカン。量だけはあるが味は相当大雑把。本当のコーヒーはスタバだけ？

4. さいごに

今回は狭山工業高校の市川校長、春日井工業高校の今井先生には大変お世話になりました。一人一人の生徒の体調管理から現地での生徒のフォローまで慣れない海外で一生懸命やって頂いて保護者ともども感謝しております。また、今回はブログを利用し保護者も含めた繊細なやりとりがとってもすばらしかったと思っております。

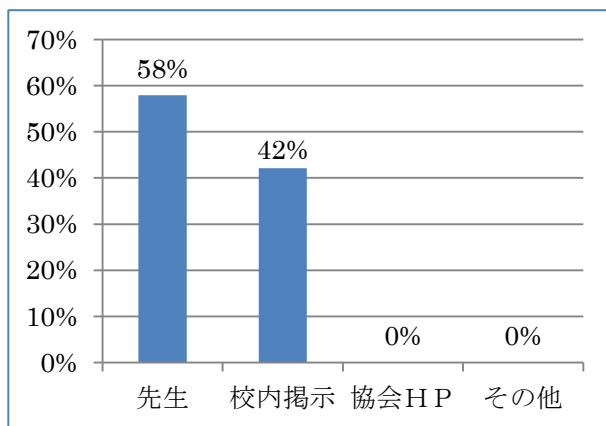
添乗の ISS のサオリさん、現地スタッフのアキコさんにも日本人の気配りで今回の旅行をまとめていただいてとても素晴らしい研修旅行であったと思っております。



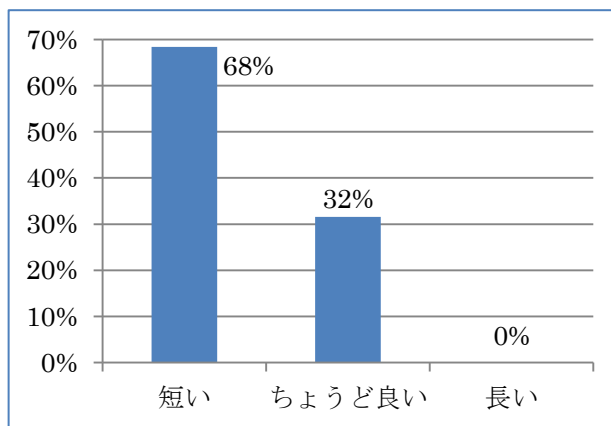
日本食の価格は高め

9. アンケート結果

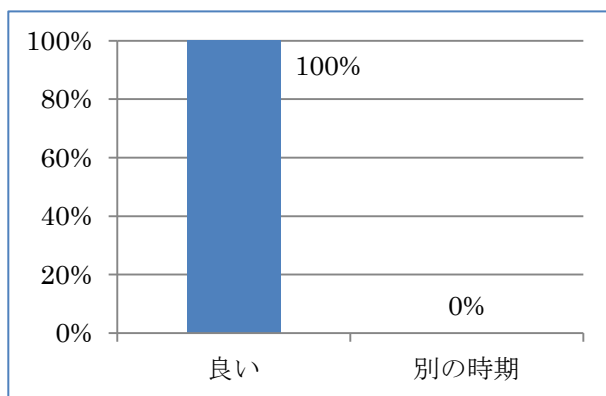
1. どうして知りましたか？



2. 期間はhowでしたか？

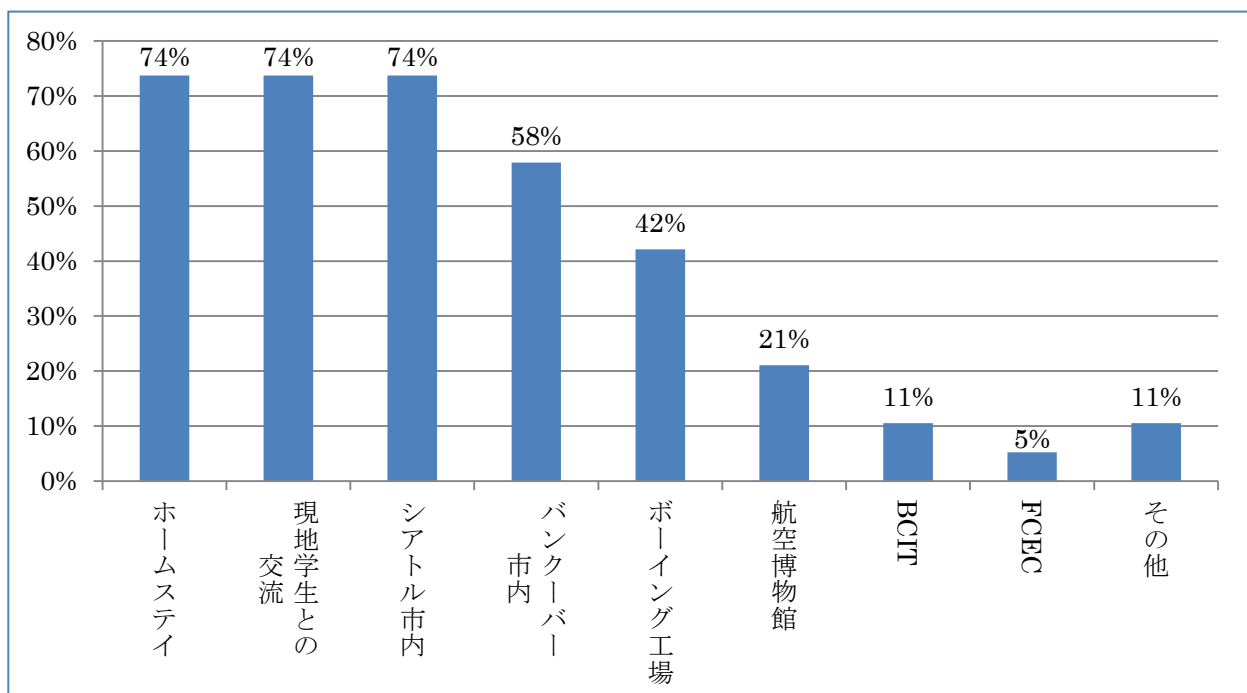


3. 時期はどうでしたか？



4. 研修の内容で良かったものは何ですか

グランビルアイランド



10. 研修生の感想

(帰国の機内でのアンケートから)

1 ホームステイについて

○参加する前は、こんな英語力でやっていけるか不安だったが、ホストファミリーも優しく、いい経験ができた。もっと英語を上手に話せるようになって、カナダに戻り、ファミリーに会いたいです。

○初めての海外であり、英語を話せるか不安でした。最初は、ホストファミリーともろくに会話ができませんでした。私は、ホストファザーとマザーが優しくしてくれていたのに、それを聞こうとしていませんでした。今思えば、大変失礼なことをホストファミリーにしてみました。

ですが、アメリカシアトルに行ったときに、自分にある変化が起こっていることに気づきました。先生方の説明や買い物の時の店員の言っていることが徐々に聞き取れるようになっていたのです。つまり、英語に少しなれたのです。それからは、ホストファミリーと少しずつ会話ができるようになりました。とてもとてもうれしかったです。

○やっぱりホストファミリーに感謝です。こんなに暖かいファミリーとはおもってなくて、帰るときに、プレゼントをもらい号泣！ファザーが送りの車の中で、ジーザスの話をしてくれて、「いつもあなたの心の中に神がいて、困難や辛いことがあっても乗り越えられる」と伝えてくれました。また、号泣してしまいました。また、絶対カナダに来たいと思いました！

○バンクーバーという地で、ホームステイ体験し、現地のローカルな生活に自ら入りました。ホストファミリーと9日間を共にしたことで、文化の違い、生活スタイルの違いを身をもって感じました。

○ホームステイは、思っていたより、過ごしやすく、とても親切でいい人達でした。

2 現地学生との交流について

○遠く離れた友達ができ、いい経験になった。
○現地の学生との交流ができたのは、よかった。

○現地の生徒も優しく、仲よくなり、Line も交換しました。また、会いたいです。

○カナディアンの学生の友達ができ、とても楽しかった。もっとカナダにいたかった。

○現地の学生との会話は、とても楽しく離れるのが辛いくらいです。

○現地学生との交流がもっと多ければ、よかった。

○今回の研修は、自分におおきな自信を与えてくれる研修にもなった気がします。海外の学生と英語で交流したこともあり、参加して、本当によかったです。

3 英会話について

○自分の英会話能力が上がりました。

○英語は苦手だし、やっていけるか不安だったけれど、全国のみんなと助け合ってやれたので助かりました。安心しました。

○ぶつかったりして、「Sorry」というと、すぐに「No Problem」などと返ってきました。気持ちが通じることが、本当にうれしかったし、楽しかった。

○何日か経つと、だいぶ英語にもなれて、周囲に英語がある生活が、とても楽しく感じられました。

○帰りの空港で、外国人に話しかけられました。そのとき、言っていることがほぼ聞き取れ、質問に答えることができました。

○「先生・親には、見てくるだけでよい」と言われたけれど、たくさん見学し、体験して、いろいろなことを体感することができた。

楽しいだけでなく、ホームステイでは、たくさんの苦勞もしたけれど、英語をかなり聞き取れるようになった。

○悔しかったのは、RCA やホストファミリーに、もっと伝えたいことがあったのに、自分の英語力が乏しいために、ほとんど伝えることができなかったことです。勉強します。

○言語の違いというのは、ものすごく大きかったです。自分の意志を母語で伝えることはとても簡単ですが、異国の「英語」という言語は、現地で、9日間生活しても、苦戦しました。日に日に相手が言っていること聞き取ることはできましたが、自分から英語という言語で、相手に伝えることはとても難しかったです。しかし、逆に、英語を話し、完璧に理解できるようになるとこの何百倍も楽しいだろうなと思いました。実際に体験したことによって、より勉強しようと思うようになりました。また、現地に行くことが、一番の英語上達法ではないかと思いました。

4 研修生・引率者について

○成田空港では、「こんなメンバーで行くんだ。大丈夫かな」と、とても緊張していた。カナダでの日々を送るうちにだんだん緊張がとれて、ほとんどのメンバーと話すことができるようになった。

○先生やガイドの方々も気さくで、より楽しく英語を学べました。

○研修生同士も打ち解けて、毎日を笑顔で過ごせました。

○同じ工業高校生が、全国から集まり、10日間の旅に行きましたが、みんな心のよい人ばかりで、異国でよい思い出や絆を深められたと思います。

○なんと言っても、カナダの家族、先生、生徒と楽しくふれあうことができ、本当にうれしかった。です！

○みんなに感動デス、先生もみんなもありがとう。

○メンバーとも先生ともよく話した。最終日は少し寂しい。

○日本人学生と一緒にいる時間がもう少しだけ欲しかった。

5 シアトル市内・バンクーバー市内

○バンクーバー・シアトルの町並みは、見ているだけで、文化の違いなどがわかりました。

○シアトルの1泊2日の観光は、町並みや絶

景に大興奮でした。

○今回、最も楽しかったのは、シアトルの2日間。セフコフィールドは最高。

○観光地を見て回るのは、楽しかった。

6 企業見学（ボーイング工場・航空博物館・BCIT・FCECほか）

○ボーイング社の工場見学など大規模な広大で立派な工場は、日本ではなかなか見ることができないので、関心がありました。一番は、規模の違いではないかなと思いました。工場内は、バスで移動しなければならないほど広く、大きな建物がいくつもあり、アメリカの大きさにはとてもびっくりしました。

○企業見学は、ガイドの人が何を言っているかよく理解できませんでしたが、とても楽しめました。

○工場見学は、英語の説明だけでは、理解できない部分が多かった。できれば、英語の説明を聞いて、「こんな意味かな？」と考えた後、日本語で説明してくれると理解が深まると思う。

○会社の説明は、よくわからなかった。

7 研修期間について

○10日間は、あっという間だった。費用はかかっても、2週間ぐらい過ごしたかった。

○とても早く感じた8泊9日でした。もっと、カナダにいたいなと思いました。

○もっと、期間が長く欲しいと思った。

○個人的には、もっと長い時間滞在したかった。

8 研修内容と印象について

○今回の研修は楽しいとしかいえない。スケジュールも充実しており、英語を楽しく学習することができた。

○夜の10時を過ぎても明るいのは、変な感じだった。

○最初は、とても不安で緊張していた。

○初日と2日目は、特に緊張していて、とても疲れた。

○初めての海外と飛行機だったので、すごく不安だった。でも、そんな気持ちは、バンクーバーについて、吹っ飛びました。ドキドキしながら、初めての世界を見て、全身で感じることができ、とても充実していました。

○全国から、20名の工業高校生が集まり、10日間異国の文化や生活を身をもって体験しましたが、自分自身にとって、今回の経験が今後の生活や将来の仕事に大きなプラスになったと思います。

○初めての海外研修で、とても毎日が刺激的でよい経験であった。

○この研修でよい思い出と勉強と経験を得ることができた。とても楽しかった。

○この研修でのたくさんの経験が自分を変えてくれた。

9 今後に向けて

○私の将来の目標は、日本の工業界が、より国際化し、グローバル社会の中で、従事することです。今回の研修に参加し、目標を実現させるのに、今、最もやらなければならないことがわかったような気がします。

1つめは、日本で先生達が教えてくれる専門的な技術や知識を使えるまで習得すること。

2つめは、世界・グローバルに活動するためには、英語が必要不可欠だということ。

高校卒業までに、目標を **realization** できるように、無駄のないように卒業するまで頑張りたいと思います。

○これから物事の考え方や個性の表し方などきっといろいろな面で変わってくると思う。

○今回の研修で、自分の住んでいた世界の狭さとこれから「挑戦」することができるということを知ることができました。

○自分の知らないことが、山ほどあることがわかった。海外に視野を広げ、様々な人と出会い、自分の知らないことを少しでも多く学んでいきたい。

○今回の研修を通じて、「英語をもっと利用したい。」「働くにしても、日本で働き続けることがすべてではない」と感じた。

○今の自分の目標にプラスになった。必ず、英語を使った仕事に就きたい。その方が、絶対楽しいから。

○また、このような機会に参加したい。

11. 結びに

第14回海外研修は、参加者20名（生徒19名、教員1名）で予定どおりに実施できました。参加者はじめ保護者・学校関係者の皆様に心より感謝いたします。

今回は、初めてのことが二つありました。一つ目は「ブログの開設」です。引率の今井先生のお陰で臨時のブログを開設していただき、リアルタイムで研修中の様子が配信されました。参加者のご家族や学校関係者にとっては、安全・安心への情報提供になったと思います。二つ目は「教員参加」です。参加者にもかかわらず吉田先生には現地で様々なご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

この海外研修は、訪問先が第1回～10回のオーストラリアからカナダ・アメリカになって4回目、研修内容も充実して安定したものとなってきました。アンケートからも参加者には概ね満足していただけと推察できますが、第15回海外研修に向けて、国際化事業推進委員会を中心に多くの皆様からご意見をいただき、さらに改善をしていきたいと考えます。

工業教育だけでなく様々な分野でグローバル人材が強く求められています。この海外研修に参加した工業高校生にとって今回の機会は貴重な経験であったと思います。多感な思春期（高校時代）の海外体験が、それぞれの人生に大いに役立つことを期待するとともに参加した皆さんの今後の活躍を心から祈念します。

（この報告書は、本協会のホームページに掲載する予定です）



BCIT

国際化事業推進委員会委員

委員長	市川 孝（埼玉県立狭山工業高等学校長）
委員	關 敏昭（千葉県立京葉工業高等学校長）
	加藤 秀次（東京都立蔵前工業高等学校長）
	笹原 哲也（神奈川県立藤沢工科高等学校長）
事務局	瀧上 文雄（全国工業高等学校長会事務局長）
	山田 勝彦（全国工業高等学校長会事務局次長）
引 率	市川 孝（埼玉県立狭山工業高等学校長）
	今井 完次（愛知県立春日井工業高等学校）